

# 勝沢田之口遺跡 発掘調査報告書

2008. 2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

# 勝沢田之口遺跡 発掘調査報告書

2008. 2

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



勝沢田之口遺跡全景



H-26号住居跡（張り出し住居）全景（西から）



H-10号住居跡（抵張住居）、H-40号住居跡（張り出し住居）全景（西から）



H-10号住居跡版状の貼り床

## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋の地は、800余りの古墳が存在していたように、上野毛の国を中心地として栄え、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府など重要な施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が築をけずつた地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

勝沢田之口遺跡は、赤城山南麓の勝沢町に位置します。調査の結果、奈良・平安時代の堅穴式住居跡群や中世の城館跡に伴う堀跡が発見されました。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、期間の制約された中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成20年2月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
団長 砂川次郎

## 例　　言

- 1 本報告書は、市有地売却に伴って実施した勝沢田之口遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地 群馬県前橋市勝沢町287番1
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 砂川次郎）の指導のもとに委託者 前橋市（市長 高木政夫）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。  
調査担当者 梅澤克典（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）  
金子正人・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査期間 平成19年8月8日～平成19年10月31日
- 5 整理期間 平成19年11月1日～平成20年2月1日
- 6 調査面積 2,500m<sup>2</sup>
- 7 出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。
- 8 測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…金子正人・荻野博巳、測量調査…山口和宏、安全管理・重機オペレーター…金子、作業事務…須永豊が担当した。
- 9 本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Iについては梅澤克典（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、その他の荻野博巳が担当した。編集・校正…須永眞弘・金子・山口、実測図の整理他…山口、造構・遺物のトレース…山口、遺物の整理…戸根浩美、遺物実測…佐々木智恵子、遺物洗浄・注記・接合…戸根・細井美佐子・中川綱子・長沼富美子・霜田恵子、写真整理・内業事務…須永豊が担当した。
- 10 発掘調査に参加した方々（敬称略）

上村一祝	北爪一郎	石原広吉	小林益二	品川浪江	諸田伊勢寿	諸田ケサエ
中山千枝子	安立孝一	信沢弘造	飯沼聰	下田弘	吉田宣政	吉田実
高橋修	羽鳥晃正	細井光治	碓井俊夫	桙澤秀夫		

## 凡　　例

- 1 遺跡の略称は勝沢田之口遺跡（19C38）である。
- 2 造構名の略称 奈良・平安住居跡…H、溝跡…W、土坑…D、ピット（柱穴）…P。
- 3 実測図中の記号 土器…P、石…S。
- 4 実測図の縮尺は、次のとおりである。  
遺跡全体図（1/200）、住居跡（1/80）、カマド（1/40）、溝・土坑・ピット（1/80）、遺物実測図（1/4）を使用した。
- 5 本文中の（ ）は推定、〔 〕は検出値を表す。
- 6 掘団に国土地理院発行の2万5千分の1「前橋・大胡・渋川・鼻毛石」を使用した。
- 7 遺跡の位置の基準は、国土地理院三角点及び水準点と照合済。  
基準点X 0 , Y 0 グリッド地点 日本国測地系座標 X 46,984.000m、Y -66,120.000m  
水準点 BM…148.50m、等高線20cm、グリッド4m間隔
- 8 土層観察及び土器類の色調名は、（農林省農林水産技術会議事務局監修 財團法人 日本色彩研究所 色票監修）による「新版標準土色表」を使用した。
- 9 火山降下物の略称と年代は以下のとおりである。  
As-B：浅間B（供給火山 浅間山、1108年）  
As-BP：浅間板鼻褐色（供給火山 浅間山、1.7～2.1万年前）
- 10 造構・遺物の挿図に使用したスクリーントーンは、以下のとおりである。  
造構平・断面図 炭化物範囲…■■■、地山…■■■  
遺物実測図 須恵器の断面…■■■、施釉部分…■■■、黒色処理…■■■、煤付着…■■■
- 11 各造構の面積は、平面図をもとに座標面積計算より算出した。
- 12 H-15・27号住居は欠番とする。

# 目 次

はじめに

例言・凡例

目 次

挿図・表・写真図版目次

I 調査に至る経緯 ..... 1

II 遺跡の位置と歴史的環境

  1 遺跡の立地 ..... 1  
  2 歴史的環境 ..... 1

III 調査の方針と経過

  1 調査方針 ..... 3  
  2 調査経過 ..... 4

IV 層 序 ..... 4

V 検出された遺構と遺物

  1 積穴住居跡 ..... 5  
  2 ピット ..... 13  
  3 土 坑 ..... 13  
  4 溝 ..... 13

VI まとめ ..... 14

抄録

## 挿 図

第1図 遺跡位置図	2	第12図 H—21～23号住居跡、W—4号溝	32
第2図 周辺遺跡図		第13図 H—24～26・28号住居跡	33
第3図 基本土層断面図	4	第14図 H—30～32号住居跡	34
第4図 勝沢田之口遺跡全体図	23	第15図 H—30～34号住居跡	35
第5図 H—1～5号住居跡	25	第16図 H—35～39号住居跡	36
第6図 H—6・7号住居跡	26	第17図 H—41号住居跡、W—1～7号溝、 D—15号土坑、P—90号ピット	37
第7図 H—8・9号住居跡	27	第18図 H—1～12号住居跡遺物実測図	38
第8図 H—10・11・40号住居跡	28	第19図 H—12～14・16～26・28・29号住居跡 遺物実測図	39
第9図 H—12～14号住居跡	29	第20図 H—29～32・34～39・42号住居跡、 P—87・94号ピット遺物実測図	40
第10図 H—16～18・29・42号住居跡、 W—4号溝	30		
第11図 H—19・20号住居跡、W—3・4号溝	31		

## 表

第1表 周辺遺跡概要一覧表	3	第4表 土坑計測表	18
第2表 住居跡一覧表	16	第5表 溝計測表	18
第3表 ピット計測表	17	第6表 出土遺物観察表	19

## 写 真 図 版

口 絵 勝沢田之口遺跡全景、H—26号住居跡全景 H—10・40号住居跡全景、H—10号住居跡版 架状の貼り床	図版 6 H—39～42号住居跡、W—1・5号溝全景 図版 7 W—2～4・6・7号溝、D—15号土坑全景、 ピット群全景、 P—90号ピット全景、深掘りセクション全景
図版1 調査前全景、調査区全景、H—1～6号住居 跡全景	図版 8 H—1～14号住居跡出土遺物
図版2 H—7～12号住居跡全景	図版 9 H—16～26・28・29号住居跡出土遺物
図版3 H—13・14・16～21号住居跡全景	図版10 H—29～32・34～39・42号住居跡、P—87・ 94号ピット出土遺物
図版4 H—22～26・28～30号住居跡全景	
図版5 H—31～38号住居跡全景	



第1図 遺跡位置図

## I 調査に至る経緯

平成17年4月に前橋市より前橋市教育委員会へ、勝沢町の市所有地内の埋蔵文化財の所在について紹介があった。該当地は周知の埋蔵文化財包蔵地（田口遺跡）に属するため、事前に試掘調査を実施して遺跡までの深さや内容を確認する必要が生じた。平成17年12月7日に事業課である市管財課から試掘調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、これを受けた教育委員会では平成17年12月20～22日にかけて試掘調査を行った。調査の結果、奈良・平安時代の住居や溝等が存在することを確認した。教育委員会では遺跡の保存について前橋市と協議を行ったところ、現状での保存が困難であるとの事から、記録保存を目的とした発掘調査について調整に入った。平成19年4月9日に管財課より発掘調査依頼書が教育委員会に提出された。教育委員会では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団に調査を依頼したところ、調査団は直當での実施が困難であるため、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成19年7月31日に調査団と前橋市の間で発掘調査に関する委託契約を締結した。調査団は民間調査機関であるスナガ環境測設株式会社と8月8日に業務委託契約を締結し、8月24日より土木機械による表土掘削を開始した。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1 遺跡の立地

本遺跡の所在する前橋市勝沢町字大門は、主要地方道前橋・赤城線の時沢の信号から県道四ッ塚・原之郷・前橋線を東へ約900m地点、県道南側に所在する。

前橋市勝沢町は、昭和29年に前橋市と合併するまでは勢多郡芳賀村字勝沢であった。旧芳賀村は、現在の勝沢、小神明、五代、鳥取、小坂子、端氣、嶺の7町にわたる行政の中心地であった。芳賀地区の周辺域は台地部を中心に遺跡の濃密分布地域であり、大規模な团地造成に伴い数多くの発掘調査が行われている。

本遺跡は、日本百名山の一つ赤城山南麓火山斜面の裾野で、緩やかな斜面を示す自然豊かな土地である。山麓に源を発する中小河川が付近を南流し、部分的に解析谷を形成する舌状台地と谷地部を作っている。この斜面の末端部は、本遺跡から約1.6km南へ下った主要地方道前橋・西久保線付近で、旧利根川の作った広瀬側低地帯に接し、この付近から関東平野が広がっている。

### 2 歴史的環境

本遺跡の所在する近隣地域では、数多くの遺跡が確認されている。「群馬県遺跡台帳」によると近接する上細井町には、縄文時代から中世頃までの土器の散布状況や構造の確認、調査などが古くから行われている。主な確認済みの遺跡をあげると、第2図の2～13があり包蔵地として記載され、遺跡が密集していることがわかる。また、本調査区の東方に位置する、芳賀团地遺跡群（芳賀北部团地遺跡、芳賀西部团地遺跡、芳賀東部团地遺跡）は昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて調査が行われ、芳賀北部团地遺跡では縄文時代前期から後期の堅穴住居跡や中期の敷石住居跡、奈良・平安時代の堅穴住居跡や中世の勝沢城跡の一部を検出した。芳賀西部团地遺跡では、縄文時代前期の堅穴住居跡や配石構造を検出した。また、昭和10年の上毛古墳總覧の記載漏れ古墳を32基検出し、芳賀地区には集中して100基近くの古墳が確認された。芳賀東部团地遺跡では、縄文時代前期の堅穴住居跡や中期末から後期前半の敷石住居が検出されている。その他報告されている遺跡から芳賀北曲輪遺跡では、縄文時代前期の住居跡や中期末から後期前半の敷石住居、倉本遺跡は弥生時代の堅穴住居跡や戦国時代以降の環濠、

端氣遺跡群Ⅰでは弥生時代の方形周溝墓など、端氣遺跡群Ⅱでは中世の環壕が検出されている。小神明遺跡群Ⅱ、西田遺跡からは古墳時代後期の円墳や帆立貝式古墳の検出があった。檜峯遺跡では奈良・平安時代の竪穴住居跡とともに奈良三彩小壺（前橋指定重要文化財）が検出された。鳥取福蔵寺遺跡では繩文時代の竪穴住居跡、古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡や製鉄遺構が、鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡では繩文時代の竪穴住居跡、古墳から奈良・平安時代の竪穴住居跡や細石刃文化石器群（旧石器）が検出されている。また、五代南部工業団地遺跡群では平成12年度から16年度と18年度に渡り発掘調査し、繩文時代前期・中期の竪穴住居跡や土坑、古墳時代前期から後期の竪穴住居跡・方形周溝墓・周溝状遺構・土坑、奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・ピット・溝跡・井戸跡等が検出され、中・近世では、地下式土坑・土坑・溝跡・井戸跡等が検出されている。

このように芳賀地区の遺跡を見ると、旧石器時代から繩文、古墳、奈良・平安、中・近世の遺構が検出され、ほとんどの時代にわたり人々の生活の痕跡が見られる地域である。



第2回 周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡概要一覧表

No	遺跡名	概要	No	遺跡名	概要
1	勝沢田之口遺跡	本遺跡	32	五代江戸屋敷遺跡	古墳～奈良・平安住居跡、他
2	田之口遺跡	古墳時代の集落跡と住居跡検出	33	五代木福I遺跡	圓文・古墳住居跡、奈良・平安住居跡
3	西田之口遺跡	圓文・弥生時代の土器片出土	34	五代木福II遺跡	圓文配石遺構、古墳～奈良・平安住居跡
4	丑子遺跡	石組カマドをもつた土師器使用の住居跡検出	35	五代竹花遺跡	圓文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡
5	天王遺跡	圓文土器片多數発見	36	五代深堀I遺跡	圓文・平安住居跡
6	大間久保遺跡	圓文中期・後期の土器片出土	37	五代伊勢宮I遺跡	古墳・奈良・平安住居跡、他
7	新田上遺跡	圓文中期の土器片検出	38	五代伊勢宮II遺跡	圓文・古墳・奈良住居跡
8	八幡山の苔道跡	比高4mの河岸段丘の末端に位置する中世の城館跡	39	五代伊勢宮III遺跡	圓文土坑、平安住居跡、他
9	葵原遺跡	圓文中期・古墳時代後期の土器分布	40	五代深堀II遺跡	圓文・古墳・奈良・平安住居跡
10	灰塚遺跡	圓文中・後期・古墳時代の土器分布	41	五代中原I遺跡	圓文・古墳・平安住居跡
11	南灰塚遺跡	圓文土器と古墳時代の土器散布	42	五代伊勢宮IV遺跡	圓文住居跡・土坑・古墳～奈良・平安住居跡
12	定福遺跡	富士見村との境界地域にあり比較的古い土器器物散布	43	五代伊勢宮V遺跡	圓文住居跡・土坑・古墳～奈良・平安住居跡
13	丑子塚遺跡	前方後円墳	44	五代伊勢宮VI遺跡	圓文住居跡・土坑・古墳～奈良・平安住居跡
14	南田之口遺跡	圓文時代土坑、古墳時代住居跡他	45	五代中原II遺跡	圓文・古墳住居跡、他
15	鳥取城遺跡	圓文土坑、中世の溝	46	五代中原III遺跡	古墳住居跡・土坑・柱穴、
16	芳賀北原团地遺跡	圓文・奈良・平安住居跡、勝沢城跡	47	五代山街道I遺跡	圓文・古墳・平安住居跡
17	芳賀西團地遺跡	圓文住居跡、古墳	48	五代山街道II遺跡	圓文土坑、他
18	芳賀東部团地遺跡	圓文住居跡、古墳・	49	五代竹花II遺跡	圓文・古墳～奈良・平安住居跡
19	檜峯遺跡	古墳～奈良・平安住居跡	50	五代木福III遺跡	古墳～奈良・平安住居跡
20	小神明遺跡群I	圓文住居跡、奈良・平安住居跡	51	五代木福IV遺跡	古墳～奈良・平安住居跡
21	小神明遺跡群II 九料遺跡	圓文住居跡(敷石)、古墳住居跡・奈良・平安住居跡、近世埋葬施設	52	五代深堀III遺跡	圓文住居跡・土坑・古墳～奈良・平安住居跡
22	小神明遺跡群II 西田遺跡	圓文・古墳住居跡、円墳・帆立貝式古墳	53	五代伊勢宮遺跡(I)	圓文住居跡・土坑・古墳～奈良・平安住居跡
23	端氣遺跡群I・II	圓文住居跡、弥生・方形周溝墓、古墳住居跡、環濠(中世)	54	檜峯古墳	円墳
24	倉本遺跡	弥生住居跡、環濠(戰国時代以降)	55	桂正田稲塚古墳	円墳か
25	小神明遺跡群II 大明神遺跡	古墳住居跡	56	東久田古墳	墳墓
26	芳賀北曲輪遺跡	圓文住居跡、古墳	57	オブノ古墳	前方後円墳
27	芳賀北原遺跡	古墳・奈良・平安住居跡	58	オブノ西古墳	埴丘無
28	五代楠遺跡	古墳住居跡	59	勝沼城跡	中世
29	鳥取東原遺跡	古墳住居跡、近世埋葬施設	60	嶺城跡	中世
30	鳥取福藏寺遺跡	圓文住居跡、古墳～奈良・平安住居跡	61	小坂子城跡	中世
31	鳥取福藏寺II遺跡	旧石器(細石文化石器群)、圓文・古墳～奈良・平安住居跡	62	兎替戸の砦跡	中世
			63	小坂子要害城跡	中世
			64	鳥取の砦跡	中世
			65	小神明の砦跡	中世

### III 調査の方針と経過

#### 1 調査方針

調査実施に際しては、グリッドを西から東へX 1、X 2、X 3、…、北から南へY 1、Y 2、Y 3、…を基本として（グリッド原点X 0、Y 0は、日本測地系 座標値X = 46,984.000、Y = -66,120.000）調査区域に4 m毎にグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また、水準は芳賀小学校の屋上にある2級基準点（4）からの基準標高に基づき測設した。

図面作成は、平面図をトランシット、断面図を遺り方による細部測量で作図を行った。また、遺物は遺構グリッド単位で層位毎に収納し遺物分布平面図及び遺物台帳に記載し番処理して取り上げた。遺構・遺物等の写真撮

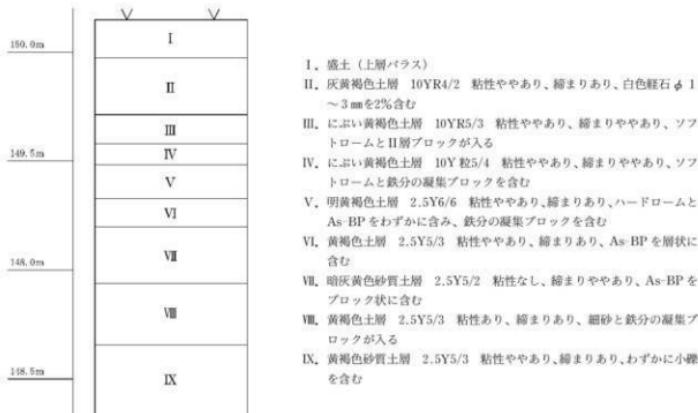
影は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を使用した。

## 2 調査経過

発掘調査は平成19年8月8日に契約を締結し8月9日より調査区の草刈りに入る。8月23日より現場事務所を設営し、掘削・運搬等の重機及び資材を搬入した。8月24日に調査範囲の確認及び表土掘削を調査団業務監督員の指導を得て重機で行った。またジョレン掛け、精査による遺構確認を行った。8月27日より検出した住居跡、溝、土坑、ピットのうち、住居跡、溝等の発掘作業に入った。9月5日よりグリッド杭及び水準点を調査区に測設し遺構図面の作成作業に入った。また、各遺構の記録写真撮影も随時始めた。10月に入り遺構の検出状況もほぼ確定した。住居跡については総定数の倍になり作業への影響が心配された。10月16日大溝を挟んで北側へと調査を進め2・3軒の重複住居や溝と重複する住居の発掘に入る。また遺物の出土量や重複住居が多いため、とくに住居の切り合いなどには注意を払って作業を行った。さらに住居跡の調査と並行して土坑・ピットの調査も進めた。住居跡では重複住居の貼り床に版築工法を使ったものや住居跡の一部に張り出しが作られているものなどが検出された。10月末に各遺構が完掘しラジコンヘリコプターによる空撮を行い、調査団業務監督員の検査を受けて調査を終了した。10月31日に埋め戻し作業を完了した。

## IV 層序

本遺跡の基本土層は、北壁部分をもとに模式的に断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。また、地点により堆積状態の差異はあるが基本的に第3図に示したとおりである。



第3図 基本土層断面図

## V 検出された遺構と遺物

### 1 穫穴住居跡

#### H-1号住居跡 [第5図、図版1]

位置 X 1・2, Y13グリッド 形状 南側が調査区外のため不明。 規模 東西 [3.15] m、南北 [1.60] m、確認面から床面までの壁高31～36cm。 面積 [2.835] m<sup>2</sup> 主軸方向 不明。 床面 やや凹凸のあるハードロームの床で、標高は[147.77] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 不明。 時期 埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。 遺物 須恵器壺1点を掲載した。

#### H-2号住居跡 [第5図、図版1]

位置 X 2～4, Y13・14グリッド 重複 W-2号溝に掘り込まれている。 形状 南側は調査区外のため不明。 規模 東西 [3.75] m、南北 [2.76] m、確認面から床面までの壁高27～29cm。 面積 [7.609] m<sup>2</sup> 主軸方向 不明。 床面 平坦なハードロームの床で、標高は[147.85] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴 P 1北西寄り、長径32cm、短径31cm、深さ25cmの円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁側でW-2号溝と重複し南側は調査区外で一部検出する。全長140cm、焚口部幅 [30] cm。 時期 埋土や出土遺物から9世紀中葉～後半と考えられる。 遺物 土師器甕1点、須恵器壺1点を掲載した。

#### H-3号住居跡 [第5図、図版1]

位置 X 4・5, Y14グリッド 形状 南側は調査区外で東側はカクランのため不明。 規模 東西 [3.56] m、南北 [1.80] m、確認面から床面までの壁高47～52cm。 面積 [4.677] m<sup>2</sup> 長軸方向 不明。 床面 平坦なハードロームの床で、標高は[147.65] mを測る。壁周溝は北壁側を巡る。 柱穴 P 1北西側、長径52cm、短径49cm、深さ13cmの円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁の中央寄りで上面はカクランされ南側は調査区外。 主軸方向 不明。全長 [110] cm、最大幅 [50] cm、焚口部幅 [37] cm、残りは良くない。 時期 埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。 遺物 土師器甕1点を掲載した。

#### H-4号住居跡 [第5図、図版1]

位置 X 1・2, Y12・13グリッド 重複 H-5号住居を掘込み北西側にカクランに入る。 形状 方形を呈す。 規模 東西4.36m、南北4.30m、確認面から床面までの壁高17～28cm。 面積 (16.813)m<sup>2</sup> 主軸方向 N-75°-E 床面 平坦なハードローム床で、標高は147.90mを測る。壁周溝は西壁から南壁、東壁の一部を巡る。 柱穴 P 1ほぼ中央、長径68cm、短径51cm、深さ55cmの楕円形。 貯蔵穴 南東隅、長径80cm、短径68cm、深さ50cmの隅丸長方形。 カマド 東壁側の中央や北寄りに位置する。主軸方向はN-70°-E。全長113cm、最大幅85cm、焚口部幅53cm。袖に粘土の使用が見られる。 時期 埋土や出土遺物から9世紀前半～中葉と考えられる。 遺物 土師器甕1点、須恵器壺1点、砥石1点、石1点を掲載した。

#### H-5号住居跡 [第5図、図版1]

位置 X 1・2, Y11・12グリッド 重複 H-4号住居に掘り込まれている。 形状 (長方形)を呈す。 規模 南北 [4.16] m、東西 [2.17] m、確認面から床面までの壁高20～33cm。 面積 [6.013] m<sup>2</sup> 主軸方向 [N-72°-E] 床面 平坦なハードロームの床で、標高は[148.00] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴 P 1北東隅、長径26cm、短径25cm、深さ22cmの円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁側の中央から南寄り。 主軸方向 N-68°-E 全長 [100] cm、最大幅 [82] cm、焚口部幅 [50] cm。両袖がH-4号に掘

り込まれている。 時期 埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。 遺物 土器器坏1点を掲載した。

#### H-6号住居跡〔第6図、図版1〕

位置 X 2・3, Y10・11グリッド 形状 長方形を呈す。 規模 南北4.10m、東西3.10m、確認面から床面までの壁高32~36cm 面積 12.267m<sup>2</sup> 主軸方向 N-79°-E 床面 平坦なハードロームの床で、標高は148.08mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴 P 1北西隅、長径50cm、短径48cm、深さ14cmのはば円形。P 2北東隅、長径59cm、短径57cm、深さ23cmの楕円形。 貯蔵穴 南東隅に検出。長径70cm、短径56cm、深さ20cmの楕円形。 カマド 東壁側の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-84°-E。全長98cm、最大幅75cm、焚口部幅41cm。 時期 埋土や出土遺物から8世紀後半代と考えられる。 遺物 土器器坏1点、甕1点、須恵器器坏1点を掲載した。

#### H-7号住居跡〔第6図、図版2〕

位置 X 1・2, Y 9・10グリッド 形状 丸長方形を呈す。 規模 南北4.62m、東西4.20m、確認面から床面までの壁高37~45cm。 面積 17.496m<sup>2</sup> 主軸方向 N-72°-E 床面 平坦なローム、焼土を含む貼り床で、標高は148.07mを測る。壁周溝はほぼ巡る。 柱穴 P 1北西側、長径32cm、短径32cm、深さ13cmの円形。P 2北西側、長径55cm、短径30cm、深さ10cmの楕円形。P 3南東側、長径37cm、短径37cm、深さ35cmの円形。P 4北東側、長径50cm、短径47cm、深さ18cmの楕円形。P 5北東側、長径55cm、短径42cm、深さ40cmの楕円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁のほぼ中央に位置する。主軸方向はN-76°-E。全長120cm、最大幅145cm、焚口部幅65cm。両袖に白色粘土の使用が見られる。 時期 埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。 遺物 土器器坏3点、甕1点を掲載した。

#### H-8号住居跡〔第7図、図版2〕

位置 X 5~7, Y 9・10グリッド 形状 南壁側が弧状に張り出す方形を呈す。 規模 南北6.90m、東西6.40m、確認面から床面までの壁高30~55cm。 面積 40.814m<sup>2</sup> 主軸方向 N-86°-E 床面 平坦なハードロームの床で、標高は148.17mを測る。壁周溝はほぼ巡る。 柱穴 P 1北西側、長径50cm、短径38cm、深さ60cmの楕円形。P 2南西側、長径57cm、短径46cm、深さ32cmの楕円形。P 3南西側、長径58cm、短径54cm、深さ60cmの楕円形。P 4北東側、長径50cm、短径42cm、深さ38cmの楕円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁のほぼ中央に位置する。煙道部はカクランされている。主軸方向はN-90°-E。全長150cm、最大幅133cm、焚口部幅55cm。全体に白色粘土を使用し、左袖に自然石2個使用。 時期 埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。 遺物 土器器坏1点、鉄鏃1点を掲載した。

#### H-9号住居跡〔第7図、図版2〕

位置 X 7・8, Y 11・12グリッド 形状 丸長方形を呈す。 規模 南北4.93m、東西4.00m、確認面から床面までの壁高31~35cm。 面積 18.021m<sup>2</sup> 主軸方向 N-82°-E 床面 焼土、粘土、ロームを含む平坦な貼り床で、標高は148.25mを測る。壁周溝はほぼ巡る。 柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁側の中央やや南寄りに位置する。主軸方向N-84°-E。全長122cm、最大幅132cm、焚口部幅51cm。両袖に白色粘土の使用が見られる。 時期 埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。 遺物 須恵器器坏1点、蓋1点を掲載した。

#### H-10号住居跡〔第8図、図版2〕

位置 X 8・9, Y 11・12グリッド 重複 H-11号住居を掘り込みH-10号住居を抵張している。 形状 長方形を呈す。 規模 南北5.04m、東西3.60m、確認面から床面までの壁高30~34cm。 面積 17.468m<sup>2</sup> 主軸

**方向** N-85°-E **床面** 平坦で6層の重なりが見られる版築状の貼り床で、標高は148.24mを測る。壁周溝はほぼ巡る。**柱穴** P 1 北東隅、長径46cm、短径44cm、深さ25cmの円形。P 2 北西隅、長径47cm、短径40cm、深さ20cmの楕円形。P 3 南西隅、長径41cm、短径37cm、深さ19cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置しH-40号住居のカマドと同じ位置にある。主軸方向はN-93°-Eで、焚口部はN-100°-Eを測る。全長130cm、最大幅92cm、焚口部幅45cm。粘土の使用が見られる。**時期** 墓土や出土遺物から8世紀後半～9世紀前半代と考えられる。**遺物** 土師器壺1点、甕1点を掲載した。

#### H-11号住居跡〔第8図、図版2〕

**位置** X 9・10、Y 11・12グリッド **重複** H-10・40号住居に掘り込まれている。**形状** 槌丸長方形を呈すと思われる。**規模** 南北3.50m、東西[2.90]m、確認面から床面までの壁高27～40cm。**面積** [9.067] m<sup>2</sup> **主軸方向** (N-71°-E) **床面** 平坦なハードロームの床で、標高148.25mを測る。壁周溝は検出されなかった。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-83°-E。全長120cm、最大幅110cm、焚口部幅48cm。袖に粘土の使用が見られる。**時期** 墓土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。**遺物** 土師器壺1点を掲載した。

#### H-12号住居跡〔第9図、図版2〕

**位置** X 8・9、Y 9・10グリッド **重複** W-3号溝に切られH-19号住居を掘り込んでいる。**形状** 長方形を呈す。**規模** 南北5.40m、東西3.70m、確認面から床面までの壁高38～43cm。**面積** (19.128)m<sup>2</sup> **主軸方向** N-85°-E **床面** 平坦なハードロームの床で、標高は148.30mを測る。壁周溝はほぼ巡る。**柱穴** P 1 北西隅、長径38cm、短径35cm、深さ25cmのほぼ円形。P 2 南壁側中央、長径27cm、短径24cm、深さ12cmのほぼ円形。P 3 南東隅、長径30cm、短径29cm、深さ22cmの円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-93°-E。全長115cm、最大幅80cm、焚口部幅52cm。構築材に粘土の使用が見られる。**時期** 墓土や出土遺物から9世紀前半代と考えられる。**遺物** 土師器壺2点、須恵器壺2点、塊3点、蓋1点を掲載した。

#### H-13号住居跡〔第9図、図版3〕

**位置** X 5・6、Y 12グリッド **形状** 南側がカクランにより不明。**規模** 東西[4.50]m、南北[2.20]m、確認面から床面までの壁高23～45cm。**面積** [4.081] m<sup>2</sup> **主軸方向** 不明 **床面** やや凸凹のあるハードロームの床で、標高は[147.98]mを測る。壁周溝は北壁側の検出範囲を巡る。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 不明 **時期** 墓土や出土遺物から9世紀代と考えられる。**遺物** 須恵器盤と思われるもの1点を掲載した。

#### H-14号住居跡〔第9図、図版3〕

**位置** X 7・8、Y 8・9グリッド **重複** W-3・6号溝に切られている。**形状** 長方形を呈すると思われる。**規模** 南北[5.30]m、東西[3.68]m、確認面から床面までの壁高14～18cm。**面積** (19.076)m<sup>2</sup> **主軸方向** (N-70°-E) **床面** ほぼ平坦なハードロームの床で、標高は[148.55]mを測る。壁周溝は検出されなかった。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向N-92°-E。全長88cm、最大幅[70]cm、焚口部幅[50]cm。右袖側はW-3号溝に切られている。**時期** 墓土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。**遺物** 土師器甕1点、磁石1点を掲載した。

H-15号住居跡 欠番 H-19号住居になる。

#### H-16号住居跡〔第10図、図版3〕

位置 X 4・5, Y 7・8グリッド 重複 W-3・6号溝に切られH-42号住居を掘り込んでいる。 形状 方形を呈すると思われる。 規模 東西 [3.56] m、南北 [3.24] m、確認面から床面までの壁高26~40cm。 面積 [7.925] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-82°-E) 床面 北側はH-42号住居の覆土を利用した貼り床で、標高は [148.15] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。 貯蔵穴 長径70cm、短径 (56) cm、深さ17cmの楕円形。 カマド 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向N-86°-E。全長87cm、最大幅68cm、焚口部幅46cm。左袖に割れ石4個を検出。 時期 埋土や出土遺物から10世紀中葉と考えられる。 遺物 土師器壺1点、須恵器塊2点を掲載した。

#### H-17号住居跡〔第10図、図版3〕

位置 X 5・6, Y 7・8グリッド 重複 W-3・6号溝に切られている。 形状 四丸方形を呈すると思われる。 規模 東西 [4.10] m、南北 [3.75] m、確認面から床面までの壁高53~56cm。 面積 [11.639] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-85°-E 床面 平坦なハードロームの床で、標高は [148.45] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴 P 1 南東側、長径32cm、短径28cm、深さ20cmの楕円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-89°-E。全長82cm、最大幅 [83] cm、焚口部幅44cm。両袖に粘土の使用が見られる。 時期 埋土や出土遺物から8世紀中葉～後半と考えられる。 遺物 土師器壺2点を掲載した。

#### H-18号住居跡〔第10図、図版3〕

位置 X 6・7, Y 6グリッド 重複 W-4号溝に切られている。 形状 (長方形) を呈すると思われる。 規模 南北 [2.90] m、東西 [2.68] m、確認面から床面までの壁高 5 ~ 9 cm。 面積 [6.232] m<sup>2</sup> 主軸方向 N-109°-E 床面 平坦なソフトロームの床で、標高は [148.79] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁の中央やや南寄りに位置すると思われる。主軸方向N-103°-E。全長6cm、最大幅64cm、焚口部幅31cm全体に残りがよくない。 時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 須恵器塊1点を掲載した。

#### H-19号住居跡〔第11図、図版3〕

位置 X 8~10, Y 8~10グリッド 重複 W-3・6号溝、H-12・20・41号住居に掘込まれている。 形状 南壁側が弧状に張り出す長方形を呈す。 規模 南北 [7.50] m、東西 [6.30] m、確認面から床面までの壁高20~41cm。 面積 (40.154) m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-75°-E) 床面 平坦なハードローム床で、標高は [148.37] mを測る。壁周溝は重複部分を除き巡る。 柱穴 P 1 北西隅、長径38cm、短径37cm、深さ48cmの円形、P 2 H-12号住居内南西隅、長径44cm、短径40cm、深さ56cmのはば円形、P 3 W-3号溝内南東側、長径 [60] cm、短径48cm、深さ35cmの[円形]。P 4 南壁側、長径30cm、短径28cm、深さ20cmの円形。 貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁の中央付近に焼土範囲のみを検出、H-41号住居に埋込まれている。 時期 埋土や出土遺物から8世紀前半代と考えられる。 遺物 土師器壺1点、須恵器盤と思われるもの1点を掲載した。

#### H-20号住居跡〔第11図、図版3〕

位置 X 8~10, Y 7・8グリッド 重複 W-4号溝に切られH-19号住居を掘り込んでいる。 形状 方形を呈する。 規模 東西 [7.10] m、南北 [5.90] m、確認面から床面までの壁高20~28cm。 面積 (40.035) m<sup>2</sup> 主軸方向 N-91°-E 床面 平坦なハードロームの床で、南壁側の一部は貼り床。標高は [148.67] mを測る。壁周溝は南壁の一部を除き巡る。 柱穴 P 1 北西隅、長径30cm、短径25cm、深さ32cmの楕円形。P 2 南西隅、長径40cm、短径31cm、深さ50cmの楕円形。P 3 南東隅、長径47cm、短径31cm、深さ30cmの楕円形。P 4 北

東隅、長径56cm、短径33cm、深さ41cmの楕円形。貯蔵穴 検出されなかった。カマド 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N-83°-E。全長118cm、最大幅84cm、焚口部幅50cm、粘土の使用が見られる。時期 埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。遺物 土師器坏3点を掲載した。

#### H-21号住居跡〔第12図、図版3〕

位置 X11・12、Y 6～8グリッド 重複 W-4号溝に切られている。形状 方形を呈す。規模 東西[6.62]m、南北[5.68]m、確認面から床面までの壁高24～30cm。面積 [24.110] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-88°-E) 床面 平坦なハードロームの床で、標高は[148.66]mを測る。壁周溝は東側の調査区外と南壁側一部を除き巡る。柱穴 P 1北西隅、長径31cm、短径30cm、深さ49cmの円形。P 2南西隅W-4号溝内、長径[32]cm、短径[28]cm、深さ[30]cmのほぼ円形。P 3南東隅、長径32cm、短径30cm、深さ42cmのほぼ円形。P 4北東隅、長径29cm、短径28cm、深さ41cmの円形。貯蔵穴 検出されなかった。カマド 東壁の中央付近に両袖の一部を検出した。東側は調査区外である。主軸方向は不明。全長[40]cm、最大幅[140]cm、焚口部幅40cm。両袖に白色粘土の使用が見られる。時期 埋土や出土遺物から8世紀前半～中葉と考えられる。遺物 土師器坏2点を掲載した。

#### H-22号住居跡〔第12図、図版4〕

位置 X 3～5、Y 4・5グリッド 重複 H-23号住居に掘り込まれている。形状 方形を呈すると思われる。西側はカクランされている。規模 東西[4.46]m、南北[3.96]m、確認面から床面までの壁高12～14cm。面積 (16.450) m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-70°-E) 床面 平坦なハードロームの床で、標高は148.90mを測る。壁周溝は検出されなかった。柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。カマド 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-75°-E。全長107cm、最大幅76cm、焚口部幅43cm。粘土の使用が見られる。時期 埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。遺物 土師器坏1点を掲載した。

#### H-23号住居跡〔第12図、図版4〕

位置 X 3～5、Y 3・4グリッド 重複 H-22号住居を掘り込んでいる。形状 楕丸長方形を呈する。規模 南北4.18m、東西3.68m、確認面から床面までの壁高20～32cm。面積 14.226m<sup>2</sup> 主軸方向 N-68°-E 床面 平坦なローム、焼土まじりの貼り床で、標高は148.87mを測る。柱穴 北東隅、長径43cm、短径35cm、深さ27cmの楕円形。貯蔵穴 南東隅、長径76cm、短径73cm、深さ19cmの楕円形。掘り方面より床下土坑を3基検出した。カマド 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-72°-E。全長100cm、最大幅70cm、焚口部幅35cm。時期 埋土や出土遺物から9世紀前半～中葉と考えられる。遺物 土師器坏3点を掲載した。

#### H-24号住居跡〔第13図、図版4〕

位置 X 3・4、Y 2・3グリッド 重複 H-25・26号住居に掘り込まれている。形状 長方形を呈する。規模 南北5.05m、東西3.52m、確認面から床面までの壁高25～33cm。面積 (16.929)m<sup>2</sup> 主軸方向 N-93°-E 床面 平坦なハードロームの床で標高は149.02mを測る。壁周溝は西壁側の一部を除き巡る。柱穴 検出されなかった。貯蔵穴 南東隅、長径96cm、短径90cm、深さ20cmの楕円形。掘り方面より床下土坑を1基検出した。カマド 主軸方向はN-94°-E。全長128cm、最大幅105cm、焚口部幅62cm。両袖に白色粘土を使用している。時期 埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。遺物 土師器坏1点、須恵器坏1点を掲載した。

#### H-25号住居跡〔第13図、図版4〕

位置 X 2・3、Y 2・3グリッド 重複 H-24・26号住居を掘り込んでいる。形状 長方形を呈する。規模 東西4.25m、南北2.88m、確認面から床面までの壁高12～22cm。面積 11.175m<sup>2</sup> 主軸方向 N-90°-E

**床面** 平坦でやや軟質の床で標高は149.08mを測る。壁周溝は検出されなかった。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-91°-E。全長98cm、最大幅80cm、焚口部幅50cm。**時期** 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。**遺物** 須恵器壺1点、壺1点を掲載した。

#### H-26号住居跡〔第13図、図版4〕

**位置** X 2・3、Y 2・3グリッド **重複** H-25号住居に掘り込まれ、H-24号住居を掘り込んでいる。**形状** 平面形は、「L」字形の張り出しを北側に有する継形の長方形を呈する。**規模** 南北5.23m、東西4.55m、張り出し部分は東西2.46m、南北1.92mを測る。確認面から床面までの壁高25~44cm。**面積** 18.274m<sup>2</sup> **主軸方向** N-56°-E **床面** 平坦なハードロームの床で、標高148.80mを測る。壁周溝は南壁側の一部を除きほぼ巡る。**柱穴** P 1 南西側、長径35cm、短径35cm、深さ8 cmの円形。P 2 南壁側、長径34cm、短径30cm、深さ22 cmの楕円形。P 3 南東隅、長径45cm、短径38cm、深さ17cmの楕円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央付近に位置する。主軸方向はN-67°-E。全長85cm、最大幅78cm、焚口部幅55cm。燃焼部内に径17×18 cm、深さ10cmの小穴あり支脚石の跡か。**時期** 埋土や出土遺物から9世紀中葉と考えられる。**遺物** 須恵器壺2点、蓋1点を掲載した。

H-27号住居跡 欠番 H-26号住居の張り出し部分になる。

#### H-28号住居跡〔第13図、図版4〕

**位置** X 5・6、Y 3・4グリッド **形状** 圓丸長方形を呈す。**規模** 南北3.50m、東西2.95m、確認面から床面までの壁高18~28cm。**面積** 9.807m<sup>2</sup> **主軸方向** N-94°-E **床面** にぼい黄褐色土の平坦な床で、標高は149.06mを測る。壁周溝は検出されなかった。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央付近に位置する。主軸方向はN-105°-E。全長118cm、最大幅75cm、焚口部幅38cm。**時期** 埋土や出土遺物から8世紀後半~9世紀前半と考えられる。**遺物** 土師器壺2点を掲載した。

#### H-29号住居跡〔第10図、図版4〕

**位置** X 6・7、Y 7グリッド **重複** W-4・6号溝に切られている。**形状** 部分検出のため不明。**規模** 東西[4.65] m、南北[1.14] m、確認面から床面までの壁高11~14cm。**面積** [3.514] m<sup>2</sup> **主軸方向** 不明 **床面** 平坦なハードロームの床で、標高は[148.80] mを測る。**柱穴** 検出されなかった。**貯蔵穴** 南東側、長径85cm、短径[80] cm、深さ15cmの楕円形。**カマド** 検出されなかった。**時期** 埋土や出土遺物から9世紀前半~中葉と考えられる。**遺物** 土師器壺1点、甕1点、須恵器壺1点、蓋1点、鉄製品錐1点を掲載した。

#### H-30号住居跡〔第14・15図、図版4〕

**位置** X 9・10、Y 3・4グリッド **重複** H-31号住居に掘り込まれている。**形状** 長方形を呈する。**規模** 南北4.80m、東西3.15m、確認面から床面までの壁高36~44cm。**面積** (14.806)m<sup>2</sup> **主軸方向** N-91°-E **床面** 平坦なハードローム床で、標高は148.96mを測る。壁周溝はほぼ巡る。**柱穴** P 1 南東隅、長径39cm、短径38cm、深さ38cmの円形。**貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-91°-E。全長174cm、最大幅84cm、焚口部幅42cm。確認面はカクランにより形状が不明で下面が半分程残る。**時期** 埋土や出土遺物から8世紀後半~9世紀前半と考えられる。**遺物** 土師器壺1点を掲載した。

#### H-31号住居跡〔第14・15図、図版5〕

**位置** X 8・9、Y 3~5グリッド **重複** H-30・32号住居を掘り込んでいる。**形状** 長方形を呈する。**規模** 南北5.96m、東西4.25m、確認面から床面までの壁高25~27cm。**面積** 24.726m<sup>2</sup> **主軸方向** N-91°-E

**床面** 平坦なハードロームの床で標高は、149.08mを測る。壁周溝は北側を巡る。 **柱穴** P 1 北西隅、長径65cm、短径61cm、深さ50cmの楕円形。P 2 南西隅、長径60cm、短径50cm、深さ60cmの楕円形。P 3 南東隅、長径60cm、短径56cm、深さ74cmのほぼ円形。P 4 北東隅、長径61cm、短径58cm、深さ67cmのほぼ円形。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-89°-E。全長122cm、最大幅74cm、焚口部幅40cm。 **時期** 埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。 **遺物** 土師器壺2点、須恵器壺2点掲載した。

#### H-32号住居跡〔第14・15図、図版5〕

**位置** X 8 ~ 9, Y 4 ~ 5 グリッド **重複** H-31号住居に掘り込まれている。 **形状** 南壁側が弧状に張り出す方形を呈す。 **規模** 東西6.50m、南北6.55m、確認面から床面までの壁高35~42cm。 **面積** 39.659m<sup>2</sup> **主軸方向** N-88°-E **床面** 平坦なハードロームの床で、標高は148.88mを測る。壁周溝はほぼ巡る。 **柱穴** P 1 北西隅、長径22cm、短径20cm、深さ36cmの円形。P 2 南西隅、長径37cm、短径33cm、深さ16cmの楕円形。P 3 南東隅、長径48cm、短径45cm、深さ41cmの円形。P 4 北東隅、長径48cm、短径46cm、深さ51cmの楕円形。P 5 北東側、長径32cm、短径30cm、深さ19cmの楕円形。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-100°-E。全長130cm、最大幅125cm、焚口部幅62cm。粘土の使用が見られ右石に割れ石を1個検出した。 **時期** 埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。 **遺物** 土師器壺2点を掲載した。

#### H-33号住居跡〔第15図、図版5〕

**位置** X 7, Y 3 ~ 4 グリッド **重複** H-34号住居を掘り込んでいる。 **形状** 四角長方形を呈す。 **規模** 南北3.50m、東西3.05m、確認面から床面までの壁高13~14cm。 **面積** 9.806m<sup>2</sup> **主軸方向** N-92°-E **床面** 平坦で軽石、ロームを含むやや軟質の貼り床で、標高は149.20mを測る。壁周溝は検出されなかった。 **柱穴**・**貯蔵穴** 検出されなかった。 **カマド** 東壁側中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-95°-E。全長85cm、最大幅80cm、焚口部幅50cm。 **時期** 平安時代と想定されるが不明 **遺物** 掲載出来るものはなかった。

#### H-34号住居跡〔第15図、図版5〕

**位置** X 6 ~ 8, Y 2 ~ 3 グリッド **重複** H-33号住居に掘り込まれている。 **形状** 方形を呈す。 **規模** 東西5.97m、南北5.30m、確認面から床面までの壁高33~47cm。 **面積** 30.366m<sup>2</sup> **主軸方向** N-83°-E **床面** 平坦なハードロームの床で、標高は149.06mを測る。また住居の中央に径3.20m×3.50mの炭化物範囲を検出した。焼失住居の可能性が考えられる。壁周溝はほぼ巡る。 **柱穴** P 1 北西側、長径45cm、短径41cm、深さ58cmの円形。P 2 南西側、長径50cm、短径40cm、深さ47cmの円形。P 3 南東側、長径52cm、短径42cm、深さ42cmの楕円形。P 4 北東側、長径50cm、短径42cm、深さ44cmの楕円形。P 5 南東隅、長径38cm、短径30cm、深さ40cmのほぼ円形。P 6 南壁側中央、長径50cm、短径51cm、深さ23cmの楕円形。 **貯蔵穴** 南西隅、長径62cm、短径60cm、深さ25cmの楕円形。 **カマド** 東壁の中央から南壁寄りに位置する。主軸方向はN-91°-E。全長120cm、最大幅85cm、焚口部幅48cm、粘土の使用が見られる。 **時期** 埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。 **遺物** 土師器壺1点、長胴甌と思われるもの1点を掲載した。

#### H-35号住居跡〔第16図、図版5〕

**位置** X 6 ~ 7, Y 1 ~ 2 グリッド **重複** H-36号住居を掘り込んでいる。 **形状** 長方形を呈すると思われる。 **規模** 南北 [3.00] m、東西2.98m、確認面から床面までの壁高14~18cm。 **面積** [8.608] m<sup>2</sup> **主軸方向** (N-100°-E) **床面** 平坦なハードロームの床で、標高は[149.36] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 南東隅、長径80cm、短径59cm、深さ25cmの楕円形。 **カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-96°-E。全長90cm、最大幅88cm、焚口部幅58cm、構築材に使用し

た自然石を4個検出した。 時期 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。 遺物 須恵器壺1点、塊1点、灰釉陶器塊1点を掲載した。

#### H-36号住居跡〔第16図、図版5〕

位置 X 6・7, Y 1 グリッド 重複 H-35号住居に掘り込まれている。 形状 長方形を呈すると思われる。 規模 東西4.05m、南北[1.82] m、確認面から床面までの壁高10~11cm。 面積 [2.081] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-98°-E) 床面 平坦なハードロームの床で、標高は[149.38] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁の中央付近に位置すると思われる。主軸方向は(N-93°-E)。全長86cm、最大幅[40] cm。焚口部幅[25] cm。北側半分は調査区外で右袖に自然石を1個検出した。 時期 埋土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。 遺物 灰釉陶器塊1点を掲載した。

#### H-37号住居跡〔第16図、図版5〕

位置 (X 5・6), Y 2~3 グリッド 形状 不明 規模 南北[3.40] m、東西[1.00] m、確認面から床面までの壁高2~5cm。 面積 [2.628] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-97°-E) 床面 カクランのため東壁側のみ検出。ハードロームの床で、標高は[148.40] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁の中央付近に位置する。主軸方向はN-95°-E。全長117cm、最大幅92cm、焚口部幅58cm。右袖によく焼けた自然石を1個検出。 時期 埋土や出土遺物から10世紀代と考えられる。 遺物 灰釉陶器塊1点を掲載した。

#### H-38号住居跡〔第16図、図版5〕

位置 X 3・4, Y 0・1 グリッド。 形状 欄丸長方形を呈すと思われる。南側はカクランで不明。 規模 南北(4.40) m、東西[3.28] m 面積 [12.283] m<sup>2</sup> 主軸方向 (N-85°-E) 床面 平坦なハードロームの床で、標高は[149.26] m、を測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴 検出されなかった。 貯蔵穴 南東隅、長径44cm、短径65cm、深さ32cmの楕円形で底は四角形。 カマド 東壁の中央から南寄りに位置する。主軸方向は(N-104°-E)。全長[112] cm、最大幅[84] cm、焚口部幅[60] cm、南側の半分はカクランにより不明。 時期 埋土や出土遺物から9世紀中葉~後半と考えられる。 遺物 土器窯2点、須恵器塊1点、皿1点を掲載した。

#### H-39号住居跡〔第16図、図版6〕

位置 X 4, Y 1・2 グリッド 重複 H-38号住居と重複か、カクランで不明。 形状 カクランにより不明。 規模 南北[3.45] m、東西[1.20] m、確認面から床面までの壁高[4~6] cm。 面積 [4.202] m<sup>2</sup> 主軸方向 不明 床面 検出部分は平坦なハードロームの床で、標高は[149.34] mを測る。壁周溝は検出されなかった。 柱穴・貯蔵穴 検出されなかった。 カマド 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-95°-E。 規模 全長76cm、最大幅93cm、焚口部幅48cm、カクランにより上面は掘り込まれている。 時期 埋土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。 遺物 須恵器塊1点を掲載した。

#### H-40号住居跡〔第8図、図版6〕

位置 X 9, Y 11・12 グリッド 重複 H-10号住居の拡張のために掘り込まれH-11号住居を掘り込こんでいる。 形状 平面形は北側に張り出しを有する横形の長方形。 規模 南北4.70m、東西2.95mで、張り出し部分は東西1.16m、南北1.24mを測る。確認面から床面までの壁高は28cm~31cmを測る。 面積 11.540m<sup>2</sup> 主軸方向 N-102°-E 床面 平坦なハードロームの床で、標高は147.80mを測る。また壁周溝は張り出し部分を含めてほぼ巡る。 柱穴 P 1 南東隅 長径30cm、短径28cm、深さ22cmのほぼ円形。 貯蔵穴 検出されなかった。

**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置し、H-10号住居と同じ位置に作られている。主軸方向はN-102°-E。全長160cm、最大幅75cm、焚口部幅42cm。**時期** H-10号住居跡とほぼ同時期と思われる。**遺物** 掲載するものはなかった。

#### H-41号住居跡〔第17図、図版6〕

**位置** X 9・10, Y 9 グリッド 重複 W-3・6号溝に切られH-19号住居を掘り込んでいる。**形状**一部の検出で全体は不明。**規模** 南北 [3.20] m、東西 [2.10] m。確認面から床面までの壁高 8~14cm。**面積** [4.617] m<sup>2</sup> **主軸方向** 不明 **床面** H-19号住居の覆土の一部を利用した貼り床とハードロームの床で平坦。標高は [148.50] mを測る。壁周溝は検出されなかった。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 不明 **時期** 出土遺物はなく不明。

#### H-42号住居跡〔第10図、図版6〕

**位置** X 4・5, Y 6・7 グリッド 重複 W-4・6号溝に切られH-16号住居に掘り込まれている。**形状**(長方形)を呈すると思われる。**規模** 南北(4.40)m、東西(3.70)m、確認面から床面までの壁高は30~35cm。**面積** [16.298] m<sup>2</sup> **主軸方向** (N-85°-E) **床面** やや凹凸しているハードロームの床で、標高は [148.04] mを測る。壁周溝は検出されなかった。**柱穴・貯蔵穴** 検出されなかった。**カマド** 東壁の中央やや南寄りに位置する。主軸方向はN-81°-E **規模** 全長115cm、最大幅90cm、焚口部幅50cm。**時期** 埋土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。**遺物** 須恵器壺1点、猪口1点を掲載した。

### 2 ピット〔第17図、図版7〕

ピットは101基が検出された。調査区の中央付近に位置するW-3・4・6号溝を挟んで北側と南側の住居跡が希薄な所に検出した。形状は大半が円、梢円形であるが中には確認時と異なり、四角形になったピットもあった。また、各ピットの配置を見ると一部分が列状に並ぶ状況を確認できたが、その他は配置が不規則で、堀立柱建物跡の構成を確認することができなかった。その中でP-85・87・90号ピットは列状に並び、角状に掘られたもので覆土に焼土、炭化物を多く含む物であった。他のピットは、覆土に輕石を含む灰黃褐色土で埋まったものがほとんどであった。時期を特定できる情報をもつピットは検出されなかったが、一部の形状から奈良・平安時代に含まれる可能性が推測される。ピットの計測値は、第3表にまとめて報告する。

### 3 土坑〔第17図、図版7〕

土坑は16基検出した。調査区の中央付近から北側と南側に位置する。平面形状は円、梢円、四角形であった。これらの土坑は、その性格が不明な物が多く、掘り込みのみの確認にとどまるものが大半であった。その中でD-13・14・15・16号土坑は、平面形状が梢円・四角形で掘り込みが深く、D-13・15・16号土坑は、覆土に白色粘土や焼土を含み、D-14号土坑は、焼土や炭化物を多く含むなどの特徴が見られ、近接して検出された。時期・用途については不明である。土坑の計測値は、第4表にまとめて報告する。

### 4 溝〔第17図、図版6・7〕

調査区全体で7条検出した。W-1~6号溝は確認面でAs-B輕石の二次堆積を含む土層で埋まり、W-7号溝は盛土下よりの掘り込みで覆土にローム土を含んでいた。各溝の状況はW-1号溝とW-5号溝が重複し、両溝とも東西方向に位置する。新旧関係は土層断面では、W-1号溝が古いと思われる。W-2号溝は、南北方向

でX 5, Y 9グリッド内で東に向かって屈曲する。その先は、カクランにより不明である。W-3・4号溝は、並行して東西方向に位置する。上幅220~280cm、深さ90~122cmを測り、他の溝より規模が大きく形状は薬研状を呈する。また両溝とも奈良・平安時代の住居跡を掘り込んでいる。W-6号溝は東西方向でW-3・4号溝が並走する間に位置し、住居跡やW-4号溝と重複する。検出状況から住居跡より新しく、W-4号溝より旧いと思われる。W-7号溝は、南北方向に位置し盛土下からの掘り込みが見られる新しい溝で近世頃と思われる。遺物は、各溝の覆土より土師器、須恵器片が出土している。これは、奈良・平安時代の集落内を掘って造られているため、とくに住居跡と重複する溝は出土量が多い。また、W-3・4号溝は形状から一定範囲を区画する城館跡の堀の一部とも推測される。他のW-1・2・5・6号溝も覆土の状況から構築時期が近いと思われ、時期を特定する遺物はないが、W-1~6号溝は中世～中世以降の出現が考えられる。溝の計測値は第5表にまとめて報告する。

## VI ま と め

今回調査を実施した勝沢田之口遺跡では、奈良・平安時代の住居跡が40軒（一部検出も含む）と中世の溝7条と時期不明の土坑16基、ピット101基などを検出した。その中で住居跡について若干の補足をしてまとめとする。

### 住居跡

本遺跡の住居跡は、出土土器から見て8世紀前半～10世紀中葉までの変遷が考えられる。ここでは各住居の特徴を記する。平面形は縦長・横長・方形など住居跡の基本の形状である。面積はH-13号住居の9.8m<sup>2</sup>からH-8号住居の40.8m<sup>2</sup>があり、大型・中型・小型に大別できる。確認面からの掘り込みは4~55cmを測り床面はハードローム面まで掘り込んだ硬い床とやや軟質の床や貼り床をもつ住居が検出された。大型住居の柱穴は、ほぼ対角線上の四隅に配置され、壁周溝もほぼ全周するものが多い。それに対して中～小型の住居跡では柱穴の配置に規則性はあまり見られず、柱穴のない住居もあり、壁周溝も同用である。カマドは、東壁の中央付近や南寄りに位置し、構築材に白色粘土や粘質土の使用が多く見られた。また、集落構成にかかる住居跡とカマドの主軸方向は、住居跡でN-56°-E (H-26号住居)からN-102°-E (H-40号住居)、カマドでN-68°-E (H-5号住居)からN-105°-E (H-28号住居)までの範囲を示す。住居跡とカマドをあわせた主軸範囲は、N-56°-E (H-26号住居)からN-102°-E (H-40号住居)の間に位置し、東指向性が明瞭である。また住居跡の位置関係をみると、大型住居のH-8、19、20、21、32、34号住居は、調査区の中央付近から東へ半円形を描いて北東寄りに点在する。中型住居のH-4、7、9、10、12、14、22、24、26、31、42号住居は、カマドがやや北東方向側に向く傾向で、南から東へ弧を描くように北側へと点在する。小型住居のH-6、23、25、28、33、35、38号住居は、カマドがやや北東方向と東方向側に向くものがあり、W-3・4号溝を挟んで北と南側に点在している。また、大型住居は8世紀代、中型住居は8世紀～9世紀代、小型住居は9世紀～10世紀にかけての出現が見られ、時代とともに大型から小型に移行する状況やカマドの向きも基本的に東指向性であるが、中・小型の住居の中には、やや北東方向に向く傾向が見られた。

### 特質住居について

検出したH-26、40号住居は、北側に張り出し部分をもつ。いずれも主軸方向に対して横長で張り出し部分は東西が1.16~2.46m、南北が1.24~1.92mを測る。また住居部分から張り出しまで壁周溝が巡る状況から同じ住居施設と思われる。同一形状の住居跡には、前橋市教育委員会が調査した柿木遺跡(H-3号住居)、芳賀東部团地遺跡II (H-482号住居)、元総社小見遺跡 (H-45号住居)や旧大胡町が調査した横瀬向山B地点遺跡(1号住居)、群馬県教育委員会・鰐群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査した下東西遺跡 (SJ26・118・138号住居)があり、平面形が「L」字形に張り出しを有するものである。その他に、貯蔵穴を伴うもので内堀遺跡群II (H-6・12号住居)がある。本住居の張り出しあは柿木遺跡などほぼ同じ形状であり、貯蔵穴を持たない。

他に、大型住居のH-8・19・32号住居跡では、南壁側に緩やかな弧を描く張り出しを確認した。その中で一番張り出しを持つものはH-19号住居で、H-8号住居、H-32号住居跡と続く。住居の主軸方向はH-8・32号住居がほぼ同じで、H-19号住居はやや北東側に傾く。また、出土遺物から時期を見るとH-19号住居、H-8号住居、H-32号住居の順に旧く、時期が新しくなるとともに南壁側の張り出しが小さくなる傾向が見られる。3軒との関連性についてははっきりしないが出土遺物や形態から8世紀代の出現が考えられる。参考資料として、上野国分僧寺・尼寺中間地域（7）で検出された1区73号、183号住居跡は、本遺跡のH-8、19、32号住居と形態が類似しており、南東壁側に弧状の張り出しをもつ住居跡として記載されている。分布としては赤城南麓地域を中心にして、利根川を挟んだ西側の台地にも分布している。用途については、住居跡の入口施設や拡張、貯蔵施設などが考えられるが、依然不明な点が多いともしている。

他には、H-10号住居で層厚約15cmほどの間に2～5cmの厚さで6面の貼り床が認められた。各面は、継続的に施されており、焼土、灰、軽石、ロームなどを含む層が版塗状に重なった状態で検出された。この版塗状の貼り床の下層には、H-40号住居を確認した。H-40号住居は、北側に張り出しをもつ住居として先にあげた住居跡である。その住居とH-10号住居の構築状況を見ると、第一にカマドが同じ位置にあり、主軸方向は全体方向で9°、焚口方向で2°ほど異なるがほぼ同じカマドの使用が考えられる。第二に、H-40号住居の覆土を利用しないで床を貼っている。第三に、貼り床レベルと同じ床面をH-40号住居より一回り大きく拡張していることがあげられる。これらのことから、H-40号住居が埋まつたあとに覆土を掘り下げてH-10号住居の床を造ったとは考えにくく、版塗状に貼り床を構築後、住居を拡張したと考えられ、H-10号住居とH-40号住居は、同一住居と考えられる。また、版塗状の貼り床の類似資料としては、二之宮谷地遺跡のH-35号住居があり、層厚10cm程度の間に5面の貼り床が認められ、各面はいずれも硬く良好で数cmの間隔をはさんで連続的に検出され、焼土、灰、ローム土などを貼って造る工法が類似している。また、H-10号住居の拡張部分については、上野国分僧寺・尼寺中間地域のまとめの中にD区内から検出された住居跡で、住居の改築が判断されたものが存在するとしている。これは、住居埋没後に同一の場所で、2～3辺の壁を共有する形で新たに住居を構築することに考え難い点があるとして、D区の第1・12・29・31・44号住居をあげており、その状況より上屋構造を備えながらの部分的な拡張は考え難く、恐らく住居を簡素化せずに上屋構造事態がその機能がまとう出来なくなつた段階か、構成員等の内的変化等により上屋構造を修築する必要性に迫られた際に、平面的拡張を実施したと考えられるとしている。本遺跡のH-10号住居もカマドの位置が同じで、改修が認められないことからH-40号住居を一回り大きくして、付近の住居跡など同じ形に拡張したことがうかがえる。おわりに、本調査区で張り出し住居としたものは5軒であるが、他の遺跡でも多くの遺跡で多く検出されている。特に張り出し部分については、弧状に張り出すものと方形に張り出すものがあり6世紀初頭から9世紀までの出現がみられ、調査区で検出した住居は8世紀前半から9世紀代の住居と類似することが確認できた。また、版塗状の貼り床については1軒のみの検出で、住居の拡張に伴って造られたと考えられる。この貼り床は、7世紀に仏教建築に伴って伝えた版塗技法と類似し、建物の基壇、城壁、築地盤などに用いられている技法である。この点について推測すると、この技術を駆使し得る勢力等の存在が考えられるが周辺での検出例がないため、今後の周辺調査による資料の増加に期待したい。

#### 参考文献

- 前橋市教育委員会 1984 『柳木遺跡』  
前橋市教育委員会 1988・3 『芳賀盆地遺跡群 第2巻 芳賀東部圏地遺跡II古墳～平安時代偏の2～』  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985 『南田口1号遺跡』  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1997 『鳥取縣竜寺山遺跡』  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999 『内藤遺跡群III』  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2000 『元紹介小見遺跡』  
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2005・3 『五代木福IV遺跡・五代深坂遺跡』  
大胡町教育委員会 2001 『横沢山1号地点調査』  
群馬県文化財保護協会 1974 『群馬県道跡台帳 I (東毛編)』  
建設省・群馬県教育委員会・朝鮮馬鹿園埋蔵文化財調査事業団 1994 『二之宮谷地遺跡』  
群馬県教育委員会・朝鮮馬鹿園埋蔵文化財調査事業団 1987 『下東西遺跡』  
群馬県教育委員会・朝鮮馬鹿園埋蔵文化財調査事業団 1988 『上野国分僧寺・尼寺中間地域』  
群馬県教育委員会・朝鮮馬鹿園埋蔵文化財調査事業団 1992 『上野国分僧寺・尼寺中間地域7』

第2表 住跡一覧表

住跡番号	位置グリッド	平面形	主軸方向	規 模	面 構	柱 の 穴 六	土 坑	カ マ ド	周 構	重 視	主 な 道 物	時 期
H-1 X1~2, Y13	不明	[不明]	[3.15×1.60]	[2.835]	無	無	無	不明	無	無	須恵塊	9C後
H-2 X2~4, Y13~14	不明	不明	[不明]	[3.75×2.76]	[7.669]	1	無	無	來	無	W-2	土師甕・須恵塊 9C中～後
H-3 X4~5, Y14	不明	不明	[不明]	[3.65×1.80]	[4.677]	1	無	無	一部有	一部有	無	土師甕 8C後
H-4 X1~2, Y12~13	方形	N-75° E	4.36×4.39	[16.813]	1	無	無	東	一部有	H-5	土師甕・須恵甕・石	9C前～中
H-5 X1~2, Y11~12	(長方形)	(N-72° E)	[4.16×2.17]	[6.013]	1	無	無	東	無	H-4	土師甕	9C前
H-6 X2~3, Y10~11	長方形	N-79° E	4.10×3.19	12.267	2	有	無	東	無	無	土師甕・便 胡柵	8C後
H-7 X1~2, Y9~10	長方形	N-77° E	4.02×4.20	17.496	5	無	無	東	全周	無	土師甕・便	8C後
H-8 X5~7, Y9~10	方形	N-86° E	6.90×6.40	49.814	4	無	無	東	全周	無	土師甕・鉄錆	8C中
H-9 X7~8, Y11~12	鶴丸形方	N-82° E	4.93×4.00	18.021	無	無	無	東	全周	無	須恵甕・蓋	9C中
H-10 X8~9, Y11~12	長方形	N-85° E	5.04×3.60	17.468	3	無	無	東	全周	H-11~40	土師甕	8C後～9C前
H-11 X9~10, Y11~12	鶴丸形方	(N-71° E)	3.50×[2.90]	[9.067]	無	無	無	東	無	H-10~40	土師甕	8C後
H-12 X8~9, Y9~10	長方形	N-85° E	5.40×3.70	[19.128]	3	無	無	東	全周	W-3 H-19	土師甕・須恵甕・塊	9C前
H-13 X5~6, Y12	不明	不明	[不明]	[4.50×2.20]	[4.018]	無	無	無	不明	一部有	須恵甕	9C代
H-14 X7~8, Y8~9	長方形	(N-70° E)	[5.30×3.68]	[19.076]	無	無	無	東	無	W-3~6	土師甕・砾石	8C後
H-15 矢番												
H-16 X4~5, Y7	方形	(N-87° E)	[3.56×3.24]	[7.925]	無	有	無	東	無	W-3~6 H-42	土師甕・須恵塊	10C中
H-17 X5~6, Y7~8	鶴丸形方	(N-87° E)	[4.10×3.75]	[11.639]	1	無	無	東	無	W-3~6	土師甕	8C中～後
H-18 X6~7, Y6	(長方形)	(N-109° E)	[2.90×2.68]	[6.232]	無	無	無	東	無	W-4	須恵甕	10C代
H-19 X8~10, Y8~10	長方形	(N-75° E)	[7.50×6.30]	[40.154]	4	無	無	鐵土有	一部有	W-3~6 H-12~20+41	土師甕・須恵盤	8C前
H-20 X8~10, Y7~8	方形	N-91° E	[7.10×5.90]	[40.035]	4	無	無	東	無	W-4 H-19	土師甕	8C中
H-21 X11~12, Y6~8	方形	(N-88° E)	[6.62×5.68]	[24.110]	4	無	無	東	側面無	W-4	土師甕	8C前～中
H-22 X3~5, Y4~5	方形	(N-79° E)	[4.45×3.96]	[16.450]	無	無	無	東	無	H-23	土師甕	9C前
H-23 X3~5, Y3~4	鶴丸形方	N-68° E	4.18×3.68	14.226	無	有	床下3	東	無	H-22	土師甕	9C前～中
H-24 X3~4, Y2~3	長方形	N-93° E	5.05×3.52	[16.929]	無	有	床下1	東	一部無	H-25~26	土師甕・須恵環	8C後
H-25 X2~3, Y2~3	長方形	N-99° E	4.25×2.88	11.175	無	無	無	東	無	H-24~26	須恵環・塊	10C前
H-26 X2~3, Y2~3	長方形	N-56° E	5.23×4.55	18.274	3	無	無	東	ほぼ全周	H-24~25	須恵環・蓋	9C中
H-27 矢番												
H-28 X5~6, Y3~4	鶴丸形方	N-94° E	3.50×2.95	9.807	無	無	無	東	無	無	土師甕	8C後～9C前
H-29 X6~7, Y7	不明	不明	[4.65×1.14]	[3.514]	無	有	無	不明	無	W-4~6	土師甕・蓋 胡柵	9C前～中
H-30 X9~10, Y3~4	長方形	N-91° E	4.80×3.15	[14.806]	1	無	無	東	全周	H-31	土師甕	8C後～9C前
H-31 X8~9, Y3~5	長方形	N-91° E	5.96×4.25	24.726	4	無	無	東	一部有	H-30~32	土師甕・須恵塊	9C前
H-32 X8~9, Y4~5	方形	N-88° E	6.50×6.55	39.659	5	無	無	東	全周	H-31	土師甕	8C後
H-33 X7, Y3~4	鶴丸形方	N-92° E	3.30×3.05	9.806	無	無	無	東	無	H-34	土師・須恵片	不明
H-34 X6~8, Y2~3	方形	N-87° E	5.97×5.30	30.366	6	有	無	東	全周	H-33	土師甕・便	8C前
H-35 X6~7, Y1~2	長方形	(N-109° E)	[5.00]×2.98	[8.608]	無	有	無	東	無	H-36	須恵環・塊・灰陶陶器	10C前
H-36 X6~7, Y1	長方形	N-98° E	4.05×[1.82]	[2.081]	無	無	無	東	無	H-35	灰釉陶器	9C後
H-37 X(5~6), Y2~3	不明	(N-97° E)	[5.40×1.00]	[2.028]	無	無	無	東	無	無	灰釉陶器塊	10C代
H-38 X3~4, Y8~1	鶴丸形方	N-89° E	[4.40]×[3.28]	[12.283]	無	有	無	東	無	無	土師甕・須恵塊・III	9C中～後
H-39 X4, Y1~2	不明	不明	[3.45×1.20]	[4.202]	無	無	無	東	無	無	カクランで不明 須恵塊	10C前
H-40 X8, Y11~12	長方形	N-102° E	4.70×2.95	11.540	1	無	無	東	全周	H-10~11	土師・須恵片	H-10と同じか
H-41 X9~10, Y9	不明	不明	[3.20×2.10]	[4.617]	無	無	無	不明	無	W-3~6 H-19	無	不明
H-42 X4~5, Y6~7	(長方形)	(N-85° E)	[4.40×3.70]	[16.298]	無	無	無	東	無	W-4~6 H-16	須恵環・猪口	8C中

第3表 ピット計測表

ピット番号	造構位置	長径cm	短径cm	深さcm	形状	備考	ピット番号	造構位置	長径cm	短径cm	深さcm	形状	備考
P-1	X6, Y12	36	33	26	ほぼ円		P-50	X8, Y14	56	49	16	橢円	
P-2	X6, Y12	82	52	54	橢円	土師片 他14点	P-51	X8, Y14	62	52	37	橢円	土師片 5点
P-3	X1, Y12	62	53	24	橢円		P-52	X8, Y14	65	57	33	橢円	
P-4	X6, Y11	80	74	46	橢円	土師片 4点	P-53	X9, Y13	45	42	36	ほぼ円	
P-5	X1, Y11	71	70	57	ほぼ円		P-54	X9, Y13	29	25	26	橢円	
P-6	X1, Y10~11	105	77	52	橢円	土師片 6点 須惠片 6点	P-55	X10, Y14	23	21	30	ほぼ円	
P-7	X1, Y10	32	31	23	ほぼ円		P-56	X10, Y14	33	29	27	ほぼ円	
P-8	X1, Y10	32	30	43	ほぼ円	土師片 1点	P-57	X10, Y14~15	43	34	34	橢円	
P-9	X1, Y10	63	55	52	橢円	土師片 5点	P-58	X10, Y14~15	29	27	35	橢円	
P-10	X3, Y13	52	45	30	橢円		P-59	X10, Y14	30	29	29	橢円	
P-11	X3, Y13	38	32	26	橢円		P-60	X10, Y12	43	33	32	橢円	
P-12	X2, Y11	34	30	31	橢円		P-61	X10, Y10~11	42	38	34	橢円	
P-13	X5, Y10	45	39	40	橢円	土師片 3点 須惠片 1点	P-62	X9, Y11	37	29	24	橢円	
P-14	X5, Y11	38	38	50	円	土師片 3点	P-63	X12, Y6	40	32	38	橢円	
P-15	X4, Y11	50	40	35	橢円		P-64	X12, Y5	31	28	13	橢円	
P-16	X7, Y11	40	37	33	橢円		P-65	X12, Y5	42	39	32	橢円	
P-17	X7, Y11	50	44	32	橢円		P-66	X11~12, Y6	21	18	15	橢円	
P-18	X7, Y12	45	36	19	橢円		P-67	X11, Y5	41	34	21	橢円	
P-19	X6, Y11	20	17	16	橢円		P-68	X11, Y6	54	49	41	橢円	
P-20	X5, Y13	27	25	12	ほぼ円		P-69	X11, Y5~6	47	40	35	橢円	
P-21	X4, Y13	47	41	34	橢円		P-70	X10, Y6	48	45	31	橢円	
P-22	X5, Y13	29	21	15	橢円		P-71	X10, Y5~6	46	33	29	橢円	
P-23	X7~8, Y12	38	35	27	橢円		P-72	X10, Y5	34	31	41	橢円	
P-24	X7~8, Y12	34	30	31	橢円		P-73	X10, Y5	48	45	24	橢円	
P-25	X8, Y12	51	49	34	橢円		P-74	X9, Y6	48	41	22	橢円	
P-26	X8, Y12	64	58	32	橢円	土師片 1点	P-75	X7, Y5	33	32	26	ほぼ円	
P-27	X8, Y13	29	25	25	橢円		P-76	X7, Y5~6	25	23	28	ほぼ円	
P-28	X7, Y13	21	18	15	橢円		P-77	X7, Y5	20	17	34	橢円	
P-29	X7, Y13	52	[36]	39	橢円		P-78	X7, Y5	36	32	39	橢円	
P-30	X6~7, Y13	70	52	33	橢円		P-79	X7, Y5	38	35	32	ほぼ円	
P-31	X7, Y13~14	38	34	34	橢円		P-80	X7, Y5	28	27	31	ほぼ円	
P-32	X7, Y13	32	28	15	橢円		P-81	X7, Y5	42	37	39	橢円	
P-33	X6, Y14	83	61	14	橢円	土師片 3点	P-82	X7, Y5	40	40	29	円	
P-34	X7, Y14	60	56	27	橢円	土師片 5点	P-83	X6, Y4	49	45	27	橢円	
P-35	X7, Y14	61	[40]	21	橢円		P-84	X2, Y6	52	46	30	橢円	
P-36	X7, Y14	60	49	19	橢円		P-85	X5, Y2	70	60	22	橢丸方形	
P-37	X7, Y14	37	35	30	橢円		P-86	X5, Y1	66	46	47	橢円	
P-38	X8, Y14	75	59	43	橢円		P-87	X5, Y1	62	62	50	橢丸方形	
P-39	X7, Y13	45	40	38	橢円		P-88	X5~6, Y4	55	52	50	橢円	土師片 1点
P-40	X7, Y13	45	37	39	橢円		P-89	X5, Y4	65	55	61	橢円	
P-41	X8, Y13	68	47	45	橢円		P-90	X5, Y1	74	61	51	四角形	
P-42	X8, Y13	37	35	25	ほぼ円		P-91	X5, Y1	72	61	29	橢円	
P-43	X8, Y13	43	40	36	橢円		P-92	X5, Y1	51	54	31	橢円	D-12と重複
P-44	X8, Y13~14	60	55	36	橢円		P-93	X9, Y2	45	38	29	橢円	
P-45	X8, Y14	71	69	33	橢円		P-94	X9, Y4	61	49	38	橢円	須惠片
P-46	X8, Y14	31	26	16	橢円		P-95	X9, Y1	56	55	36	橢円	
P-47	X8, Y14	51	44	32	橢円		P-96	X10, Y1	40	38	39	橢円	
P-48	X7~8, Y14	[47]	36	37	橢円	W-5と重複 土師片 5点	P-97	X10, Y1~2	78	46	45	橢円	
P-49	X8, Y14	46	44	30	橢円		P-98	X9, Y1	56	[30]	22	橢円	D-15と重複
							P-99	X5, Y1	51	42	53	四角形	D-11と重複
							P-100	X5, Y1	65	56	36	橢円	D-11と重複
							P-101	X9, Y1~2	47	[35]	45	橢円	D-15と重複

第4表 土坑計測表

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
D-1	X 1, Y12・13	75	69	29	楕円	土師片2点
D-2	X 4, Y11	147	117	14	楕円	土師片2点
D-3	X 5, Y11・12	120	105	24	楕円	
D-4	X 5, Y12	102	100	7	円	
D-5	X 5, Y12	105	70	20	楕円	
D-6	X 7, Y 5	142	103	49	楕円	
D-7	X 6, Y 5	80	67	26	楕円	
D-8	X 6・7, Y 4	170	160	41	楕円	
D-9	X 6, Y 3・4	182	135	38	楕円	土師片20点
D-10	X 5, Y 5・6	110	96	34	楕円	
D-11	X 5, Y 1	135	86	12	楕円	土師片1点
D-12	X 5, Y 1	88	80	17	楕円	土師片5点、須恵片1点
D-13	X 9, Y 2	97	91	54	楕円	須恵片1点
D-14	X 9, Y 2	108	67	51	楕円	
D-15	X 9, Y 1	91	88	84	四角形	P-98・101と重複
D-16	X10, Y 2	80	68	46	楕円	

第5表 溝計測表

溝番号	遺構位置	長さ(m)	上幅(cm) 下幅(cm)	深さ(cm)	底のレベル (m)	勾配 (%)	流水方向	備考
W-1	X 9・10 Y15	3.6	40 20	[20]	E147.47 W147.45	5.50	E→W	W-5と重複W-1が旧い。
W-2	X 3～5 Y 9～14	20.8	95～110 30～32	29～39	N148.24 S147.64	28.80	N→S	H-2と重複W-2が新しい。
W-3	1～12 Y 7～10	43.3	上220～280 中50～65 下25～43	95～115	E147.70 W147.66	0.92	E→W	H-12・14・16・17・19・41と重複W-3が新しい。
W-4	X 1～12 Y 5～8	43.2	上240～280 中60～70 下20～40	90～122	E148.17 W147.70	10.87	E→W	H-18・20・21・29・42・W-6と重複、W-4が新しい。
W-5	X 7～10 Y14・15	13.8	83 30	53～83	E147.58 W147.57	0.72	E→W	W-1と重複W-5が新しい。
W-6	X 3～12 Y 6～9	34.7	110 45～55	26～46	E148.47 W148.56	2.59	W→E	H-14・16・17・19・41・42・W-4と重複。住居跡より新しくW-4より旧い。
W-7	X 2 Y 0・1	5.4	60～70 25～38	17～52	N149.35 S149.11	44.44	N→S	埋土状況から新しいと思われる。

第6表 出土遺物観察表

遺物番号 別	台帳番号	器種	法 量 (cm)	①胎土焼成③色調の残存 ②表面の特徴、成形方法 ④口縁一部欠損	備 考 美術団 回数		
H-1-1 埋土	H-1 No.3	直腹壺 壺	(①)11.5 (②)4.0	①細粒の良好(還元) ②灰褐色 ③口縁一部欠損	口縁部は外側に凹る。内外面にクロ成形。 18 8		
H-2-1 埋土	H-2 No.7・16	土師壺 壺	(①)14.5 (②)12.7	①細粒の良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁一部欠損	「コ」の字形口縁。底部の堤は明瞭で直立する。口縁部は直線的に開く。外面：口縁部横無。胴底部横積重ね割り。中位から下位やや膨らむ。内部：口縁部横無。胴部上位直無。	18 8	
H-2-2 床底	H-2 No.4	直腹壺 壺	(②)6.4 (③)2.2	①細粒の良好(還元) ②N6R ③口縁一部欠損	平底。体部外側無。底部回転系切付。高台側面削。外面部：クロ口成形。	18 8	
H-3-1 埋土	H-3 No.4・5	土師壺 壺	(①)22.1 (②)14.5	①細粒の良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁一部欠損	脚部をやかに内折する。頭部は外反。口縁部に凹る。外面：口縁部横無。脚部削り。内面部：口縁部横無。脚部無。	18 8	
H-4-1 埋土	H-4 No.4	直腹壺 壺	(①)12.2 (②)6.4 (③)4.2	①細粒の良好(還元) ②良好(還元) ③2.5V6/黄灰 ④口縁一部欠損	平底。体部は内折して開く。口縁部がやや外反する。外面部：クロ口成形。底部右回転系切り。内面部：クロ口成形。	18 8	
H-4-2 埋土	H-4 No.15	土師壺 壺	(①)11.4 (②)3.3	①細・粗粒 ②良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁一部欠損	ほぼ円底。体部は内凹しながら開き口縁部は直立込み。外面：口縁部横無。底部左回転系割り。内面部：口縁部横無。底無。	18 8	
H-4-3 一活		砥石	長3 [10.8] 幅3.5 厚3.5 重さ3280g	④一部欠損	表面は研ぎ減り丸みをもつ。4面使用。粘板岩。	18 8	
H-4-4 床底	H-4 No.11	石	長3.4 幅12.8 厚5.1 重さ1495g	④完形	偏扁な球。椭円形。粒状安山岩。	18 8	
H-5-1 床底	H-5 No.4	土師壺 壺	(①)11.6 (②)3.3	①細・中粒 ②良好(酸化) ③GYR6/8焼 ④口縁一部2/3残	ほぼ円底。体部は内凹して底まで口縁部は直立込み。外面：口縁部横無。底無削り。脚部削り。内面部：口縁部横無。底無。脚部削り。	18 8	
H-6-1 埋土	H-6 No.20	直腹壺 壺	(①)12.4 (②)5.9 (③)6.2	①中粒、黑色斑 ②良好(還元) ③2.5V6/7焼 ④口縁一部2/4残	体部や内側し、口縁部で歎か外反する。外面部：クロ口成形。底部は直立系切り。内面部：クロ口成形。底無削り。	18 8	
H-6-2 埋土	H-6 No.1	土師壺 壺	(①)13.2 (②)4.1	①細粒の良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁一部2/2残	平底のみ。口縁部は直立球味に立ち上がる。外面部：口縁部横無。底無削り。内面部：口縁部横無。底無。	18 8	
H-6-3 埋土	H-6 No.2	土師壺 壺	(①)23.5 (②)17.6 (③)21.3	①細・粗粒 ②良好(酸化) ③2.7VY6/6焼 ④口縁一部2/2残	頭から底部に向かってややすば。外面部：口縁部横無。胴部上から下にかけては脚部を削り。内面部：口縁部横無。胴部削り。	18 8	
H-7-1 床底	H-7 No.22 ・26	土師壺 壺	(①)13.3 (②)3.8	①細粒の良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁部2/3損	平底のみ。体部内凹して口縁部に至る。外面部：口縁部横無。底無削り。内面部：口縁部横無。底無。	18 8	
H-7-2 埋土	H-7 No.6	土師壺 壺	(①)11.5 (②)3.0	①細粒の良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁一部2/2残	平底のみ。体部内凹して口縁部に至る。外面部：口縁部横無。底無削り。内面部：口縁部横無。底無。	18 8	
H-7-3 床底	H-7 No.14	土師壺 壺	(①)14.4 (②)3.5	①細粒の良好(酸化) ③GYR6/8焼④口縁一部欠損	平底のみ。体部内凹みに開く。口縁部は直線的に立ち上がる。外面部：口縁部横無。底無削り。内面部：口縁部横無。底無。	18 8	
H-7-4 埋土	H-7 No.7・8 ・13・17	土師壺 壺	(①)21.0 (②)20.9 (③)26.1	①細・粗粒②良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁一部2/2残	口縁部「く」の字形。脚部をやかに内側する。外面部：口縁部横無。脚部削り。脚部上位削、下位削。脚部方向削り。内面部：口縁部横無。脚部削り。	18 8	
H-8-1 床底	H-8 No.14	土師壺 壺	(①)11.0 (②)3.5	①細粒の良好(酸化) ③6.8R/4完形	丸底。底部は内凹して立ち上がる。外面部：口縁部横無。底無削り。内面部：口縁部横無。底無。	18 8	
H-8-2 床底	H-8 No.15	鉄錠	長3 [7.2] 幅2.7 厚3.0 重さ27.19g*	④錫身部、茎葉残 有茎葉式。	有茎葉式。	18 8	
H-9-1 床底	H-9 No.14	直腹壺 壺	(①)7.0 (②)3.2 (③)2.5 つまみ縁3.4	①中粒 ②良好(還元) ③GYT7/7灰白 ④つまみ縁2/3残	つまみ縁2/3で起付。大井型平底で桿をもつ器やかに折れ。口縁部で細かく直立する。外面部：大井型底部横無。底無。内面部：内側削で。	18 8	
H-9-2 床底	H-9 No.24	直腹壺 壺	(①)13.9 (②)8.0 (③)3.5	①細粒の良好(還元) ③GYR6/1灰 ④底部・口縁部2/3残	平底。底部は直線的に開き口縁部に至る。外面部：クロ口成形。底部は直立系切り。内面部：クロ口成形。	18 8	
H-10-1 床底	H-10 No.9	土師壺 壺	(①)23.8 (②)20.3 (③)17.9	①細粒の良好(酸化) ③2.5VY6/6赤褐 ④口縁一部欠損	口縁部「く」の字形。脚部をやかに膨らむ。外面部：口縁部横無。底部上位横方内、中位から斜削の方角削り。内面部：口縁部横無。底無削り。	18 8	
H-10-2 床底	H-10 No.12	土師壺 壺	(①)18.2 (②)6.3	①細粒の良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁一部2/2残	丸底。体部は内凹して口縁部に至る。外面部：口縁部横無。底部削り。内面部：口縁部横無。底無。	18 8	
H-11-1 埋土	H-11 No.1	土師壺 壺	(①)10.4 (②)3.2	①細粒の良好(酸化) ③GYR6/6焼 ④口縁一部2/2残	小さな吸込。平底化する。口縁部は上位で頗る外反する。外面部：口縁部横無。底へ底部削り。内面部：口縁部横無。底無。	口縁部削り 着	18 8

法量は、①口径②底径③胸部最大径④高さを表す。

骨器番号	台帳番号	器種	法量 (cm)	①歯士②焼成色調と残存 状態	器形の特徴、成・整形方法	備考	実測図	
H-12-1 埋土	H-12 No.1	頭蓋骨 壊	Ø(14.0) Ø(8.0) Ø(3.8)	①細粒良好(黒元) ②Ø5.7/底黄 ④口縁一部欠損	平底。体部は内肉ぎみに開き口縁部に至る。 外側：クロロ成形。底部右回転系切り。内 面：クロロ。	18	8	
H-12-2 床土	H-12 No.8	頭蓋骨 壊	Ø(12.8) Ø(7.9) Ø(3.9)	①細粒 ②良好(黒元) ③Ø7.4Ø1/前斜 ④口縁一部欠損3残	平底。体部直続的に開き口縁部に至る。 外側：クロロ成形。体部壊。底部回転系切り 削。高台回転削。外側：クロロ成形。	18	8	
H-12-3 埋土	H-12 No.7	頭蓋骨 壊	Ø(13.9) Ø(8.5) Ø(3.7)	①細粒 ②良好(黒元) ③Ø7.4Ø1/前斜 ④ほぼ全形	小盤。天井部部が壊。顎下や内肉ぎみ。 口縁部から折り曲がる。ラグドツミみ 貼付。外側：回転削り。内面：回転削で	19	8	
H-12-4 床土	H-12 No.9	頭蓋骨 壊	Ø(16.0) Ø(9.9) Ø(7.0)	①細粒黑色・長石粒 ②良好(黒元) ③Ø7.5/底 ④口縁一部/2脚削	体部は直続的に開き口縁部まで内肉ぎみ。 外側：クロロ成形。底部回転系あり。貼付高 台回転削。外側：クロロ成形。	19	8	
H-12-5 床土	H-12 No.10	頭蓋骨 壊	Ø(17.1) Ø(9.6) Ø(6.9)	①細粒 ②良好(黒元) ③Ø7.4Ø1/前斜 ④口縁一部欠損	体部は外傾し口縁部に至る。外側：クロロ 成形。底部回転系切り後貼付高台。内面： クロロ成形。	19	8	
H-12-6 埋土	H-12 No.6	土肺部 壊	Ø(13.0) Ø(3.2)	①細粒 ②良好(黒元) ③Ø7.6/6残 ④ほぼ全形	底部は壊から肉ぎみが残る。ほぼ平底化す る。口縁部は直続的になく、外側：口縁部壊 無。底部削り。内面：口縁部壊無。体部 から底部削。	19	8	
H-12-7 埋土	H-12 No.12	土肺部 壊	Ø(13.0) Ø(3.1)	①細・粒 ②良好(黒化) ③Ø7.6/6明赤 ④ほぼ全形	底部部から肉ぎみが残る。ほぼ平底化す る。口縁部は直続的になく、外側：口縁部壊 無。底部削り。内面：口縁部壊無。体部に から底部削。	19	8	
H-12-8 埋土	H-12 No.5	頭蓋骨 壊	Ø(14.0) Ø(8.0) Ø(4.1)	①細・粒 ②良好(黒元) ③Ø6.1/黄灰 ④口縁一部/2残	体部は肉ぎみに開き口縁部に至る。外側： クロロ成形。底部回転系切り。内面：クロ ロ成形。	19	8	
H-13-1 埋土	H-13 No.15	頭蓋骨 壊	Ø(20.0) Ø(16.0) Ø(4.1)	①細粒良好(黒元) ②Ø5.6/黄灰 ④口縁一部残	底部は屈曲して直続的に開き口縁部に至 る。	19	8	
H-14-1 埋土	H-14 No.8	砾石	長さ(1.0) 幅4.9 厚3.3 重さ282g	Ø(1.0)	片側小口面を残す。断面椎状をなす。使用 面研ぐ減らす。5面使つか。殆ど岩	外側底部研 磨	19	8
H-14-2 埋土	H-14 No.4	土肺部 壊	Ø(14.4) Ø(19.0) Ø(4.0)	①細粒 ②良好(黒化) ③Ø7.6/6脚 ④口縁一部/2脚削	口縁部は「L」の字形で直続的に開く。制 限部上に口縁部を持つ。外側：口縁部壊無 。底部上に口縁部削り。内面：口縁部 壊無。底部削。	19	8	
H-16-1 床直	H-16 No.5	頭蓋骨 壊	Ø(15.6) Ø(27.0) Ø(4.5)	①中輪良好(黒元) ②Ø5.6/6によい橙 ④口縁一部欠損	体部内肉ぎみに開き口縁部で短く外反 する。外側：クロロ成形。底部回転系切り 後貼付高台。内面：クロロ成形。数本の放 射状削り跡。	19	9	
H-16-2 埋土	H-16 No.7	頭蓋骨 壊	Ø(14.9) (5.1)	①細粒良好(黒元) ③Ø7.4Ø1/2脚 ④体一部/一部残	体部内肉ぎみに口縁部に至る。内外側：口 ロ成形。底部處理削き。	19	9	
H-16-3 埋土	H-16 No.1	土肺部 壊	Ø(16.2) Ø(26.2) Ø(12.5) (4.11.5)	①細粒 ②良好(黒化) ③Ø7.4Ø1.5~5.4脚 ④口縁一部/6脚	口縁部は外傾して開く。制限位に肉ぎみ をもつ。平面。外側：口縁部壊無。体か ら底部削削り。内面：口縁部壊無。体部 削。	19	9	
H-17-1 埋土	H-17 No.1	土肺部 壊	Ø(15.5) Ø(3.2)	①細・粒 ②良好(黒化) ③Ø5.6/8脚 ④口縁一部/4脚	底部に緩い丸みをもつ平底ぎみ。体部は 僅か丸みをもち口縁部直続的に立ち上がり る。外側：口縁部壊無で、底部へ削り。内 面：口縁部壊無で、体～底部削。	外側保有 着	19	9
H-17-2 埋土	H-17 No.1	土肺部 壊	Ø(13.5) (3.3)	①細粒 ②良好(黒化) ③Ø5.6/8脚 ④口縁一部/2脚	底部に緩い丸みをもつ平底ぎみ。口縁部は 直続的に立ち上がり。外側：口縁部壊無 。内面：口縁部壊無で、底部削。	外側底部保 付着	19	9
H-18-1 埋土	H-18 No.1	頭蓋骨 壊	Ø(6.1) (4.2.2)	①細粒Ø2.9不規(黒元) ②Ø7.4Ø7/2脚削 ④底部	底部付高台削り。外側：クロロ成形。 底部回転削。	19	9	
H-19-1 埋土	H-19 No.1	頭蓋骨 壊	Ø(22.2) (3.0)	①細粒Ø2.9良好(黒元) ②Ø5.6/6脚 ④口縁一部/部残	底部付平底で体部をもつ口縁部に至る。 外側：回転削。内面：捉付削。	19	9	
H-19-2 埋土	H-19 No.1	土肺部 壊	Ø(12.5) (3.0)	①細粒良好(黒化) ③Ø7.4Ø6脚 ④口縁一部/部残	前部丸底と思われる。体部内肉ぎみに開 き口縁部は少し内傾する。外側：口縁部壊 無。体～底部削。	19	9	
H-20-1 床土	H-20 No.7	土肺部 壊	Ø(12.4) (3.3)	①中輪良好(黒化) ③Ø7.4Ø6脚 ④口縁一部欠損	丸底。体部は内肉ぎみに立ち上がり、口縁 部直続ぎみ。外側：口縁部壊無で、底部削 削。内面：口縁部壊無で、体～底部削。	指印記	19	9
H-20-2 埋土	H-20 No.1	土肺部 壊	Ø(12.0) (3.7)	①細粒 ②良好(黒化) ③Ø7.4Ø6脚 ④口縁一部欠損	丸底。体部は内肉ぎみに立ち上がり、口縁 部直続ぎみ。外側：口縁部壊無で、底部削 削。内面：口縁部壊無で、体～底部削。	19	9	
H-20-3 埋土	H-20 No.2	土肺部 壊	Ø(15.0) (4.8)	①細粒 ②良好(黒化) ③Ø7.4Ø6脚 ④口縁一部/1脚削	丸底。体部は丸底をもつ。口縁部は直続的 に立ち上がる。外側：口縁部壊無で、底部削 削。内面：口縁部壊無で、指印記。	19	9	

法量は、①口径②底径③胸郭最大径④器高を表す。

遺物番号 用 所	台帳番号	器種	法量 (cm)	①軸土②焼成色調&残存 状況	器形の特徴、成・整形方法	備考	実測図	回数
H-21-1 床直	H-21 No.7	土師器 环	Ø12.2 Ø4.0	①細粒良好(焼化) ③5YR6/6擦 ④完形	丸底。体部は丸みをもち、口縁部は直かく内傾する。外面：口縁部横擦で、体～底部対割り。内面：口縁部横擦で。			19 9
H-21-2 埋土	H-21 No.7	土師器 环	Ø18.0 Ø3.0	①細粒良好(焼化) ③5YR6/8擦 ④口縁～底部1/3残	浅い大きな円。底部がやかに内凹して開き出る。外面：口縁部横擦で、体～底部対割り。内面：口縁部横擦で。			19 9
H-22-1 床直	H-22 No.1	土師器 环	Ø12.2 Ø2.8	①細粒 ②良好(焼化) ③5YR6/6擦 ④完形	底部にはほぼ平底化する。口縁部は上手で外反しながら上がる。外面：口縁部横擦で、底部対割り。内面：口縁部横擦で。	外面部厚 付着		19 9
H-23-1 床直	H-23 No.3	土師器 环	Ø11.6 Ø3.1	①細粒良好(焼化) ③5YR6/8擦 ④口縁～底部1/3残	底部は平底化する。口縁部は半平で外反する。外面：口縁部横擦で、底部対割り。内面：口縁部横擦で。	内外面墨書		19 9
H-23-2 埋土	H-22 No.1	土師器 环	Ø12.0 Ø3.0	①細粒良好(焼化) ③5YR6/6明擦 ④完形	浅い大きな円。底部がやかに内凹して開き出る。外面：口縁部横擦で、底部対割り。内面：口縁部横擦で。	内面付着		19 9
H-23-3 埋土	H-22 野～括	土師器 环	Ø13.5 Ø4.0	①細粒 ②良好(焼化) ③5YR6/6擦 ④口縁～底部1/2強残	底部は平底化する。体部は両ぎみに開き、口縁部は直線的に立ち上がる。外面：口縁部横擦で、底部対割り。内面：口縁部横擦で。底部対割り。			19 9
H-24-1 床上	H-24 No.2	土師器 环	Ø13.6 Ø3.6	①細粒良好(焼化) ③5YR6/8擦 ④底部～口縁一部欠損	底部は丸みをもつてほぼ平底だ。口縁部は直線的に立ち上がる。外面：口縁部横擦で、底部対割り。内面：口縁部横擦で。			19 9
H-24-2 床直	H-24 No.12	土師器 环	Ø14.3 Ø2.9	①細粒良好(還元) ③5YR6/8擦 ④口縁～底部1/3残	平底。体部は直線的に開き口縁部に沿る。外面：ロクロ成形、底部～部対割り。内面：ロクロ成形。底部～部対割り。			19 9
H-25-1 床直	H-25 No.5	土師器 环	Ø11.8 Ø2.6 内高3.0mm	Ø4.1 ①細粒良好(還元) ③5YR6/6擦 ④口縁一部欠損	平底。体部は両ぎみに開き口縁部は直線的に立ち上がる。体部に一箇所孔があり。外面：ロクロ成形、底部～部対割り。	土師質土器		19 9
H-25-2 床直	H-25 No.6	土師器 环	Ø7.3 Ø3.4 内高2.0mm	Ø3.2 ①細粒良好(還元) ③5YR6/6擦 ④口縁～底部1/2残	高台「ハ」の形状を保く。外面：ロクロ成形、底部～部対割り。内面：ロクロ成形。			19 9
H-26-1 埋土	H-26 No.3	直腹器 环	Ø13.0 Ø2.7	①細粒良好(還元) ③5YR6/6黄 ④口縁～底部1/2残	平底。体部は直線的に開き口縁部に沿る。外面：ロクロ成形、底部右斜面切り。内面：ロクロ成形。			19 9
H-26-2 床上	H-26 No.2	直腹器 环	Ø16.5 Ø3.3 つまみ径3.0mm	Ø2.0 ①細粒良好(還元) ③N6R6 ④つまみ～口縁部1/2残	つまりは擬宝形形で付く。天井部をもじらしやすくなる。外面：ロクロ成形、天井部対割り。内面：ロクロ成形。			19 9
H-26-3 埋土	H-26 野～括	直腹器 环	Ø12.7 Ø2.9 内高3.0mm	Ø1.9 ①中・粗粒やや不良(還元) ③5YR6/6擦 ④口縁～底部1/2残	平底。体部は直線的に開き口縁部で直かく外反する。外面：ロクロ成形。底部右斜面切り。内面：ロクロ成形。			19 9
H-28-1 埋土	H-28 No.7	土師器 环	Ø13.6 Ø3.7	Ø2.0 ①細粒良好(焼化) ③5YR6/8擦 ④口縁～底部1/2残	2024年1月24日。口縁部はやや内傾する。外面：口縁部横擦で、底部対割り。内面：口縁部横擦で。底部対割り。			19 9
H-28-2 埋土	H-28 No.3	土師器 环	Ø13.2 Ø3.3	Ø1.9 ①細粒良好(焼化) ③5YR6/8擦 ④口縁～底部1/2残	底部は丸みをもつてほぼ平底だ。体部内溝して開き口縁部に至る。外面：口縁部横擦で。底部対割り。内面：口縁部横擦で。底部対割り。			19 9
H-29-1 床上	H-29 No.6	直腹器 直	Ø19.2 Ø4.1 内高3.0mm	Ø2.0 ①細粒良好(還元) ③2.5YR6/6擦 ④口縁～底部1/2残	擬宝形状つまみ貼付。天井部をもじらしやすくなる。外面：天井部～部対割り。内面：天井部～部対割り。			19 9
H-29-2 埋土	H-29 No.8	土師器 环	Ø11.8 Ø3.2	Ø1.9 ①細粒良好(焼化) ③5YR6/8擦 ④口縁一部欠損	底部は平底化する。体部はやや内凹で口縁部で直かく外反する。外面：口縁部横擦で、底部対割り。内面：口縁部横擦で。	外面部厚付 着		19 10
H-29-3 埋土	H-29 No.4	直腹器 环	Ø13.0 Ø2.6	Ø1.9 ①中粒良好(還元) ③2.5YR6/6黄 ④口縁～底部1/2残	平底のみ。体部内溝みに開き口縁部で直かく外反する。外面：ロクロ成形。底部右斜面切り。内面：ロクロ成形。			19 10
H-29-4 床上	H-29 No.5	铁製品 鍵	長さ16.0mm 幅2.5mm 厚さ2.7mm	Ø1.9 ④底部欠損	全体に直線的。先端部で削り直ぐる。			19 10
H-29-5 床上	H-29 No.2	土師器 要	Ø21.1 Ø22.5 Ø11.1	Ø2.0 ①細粒良好(焼化) ③2.5YR6/6黄 ④口縁～底部1/2残	口縁部「コ」の字化。削りは上位に膨らみをもつ。外面：口縁部横擦で。脚部に位置方向割り。内面：口縁部横擦で。底部対割り。			20 10
H-30-1 埋土	H-30 野～括	土師器 环	Ø13.2 Ø2.9	Ø1.9 ①細粒良好(焼化) ③5YR6/6明擦 ④口縁～底部1/3残	平底のみ。体部内溝みに開き口縁部は直線的にやや開く。外面：口縁部横擦で。底部対割り。内面：口縁部横擦で。底部対割り。			20 10
H-31-1 床直	H-31 No.17	直腹器 环	Ø13.0 Ø2.5 Ø4.2	Ø1.9 ①細粒良好(焼化) ③5YR6/6擦 ④口縁～底部1/2残	体部は下位で内溝し、中位で直線的に開き口縁部に至る。外面：ロクロ成形。底部対割り後削付高台。内面：ロクロ成形。			20 10
H-31-2 床直	H-31 No.9	土師器 环	Ø13.6 Ø3.1	Ø1.9 ①細粒良好(焼化) ③5YR6/6明擦 ④口縁～底部1/2残	平底。体部内溝みに開き口縁部は直線的にやや開く。外面：ロクロ成形。底部対割り。内面：ロクロ成形。			20 10

法量は、①口径②底径③胸部最大径④高さを表す。

遺物番号 用	台帳番号	器種	法量 (cm)	①軸土②焼成色調③残存 状態	器形の特徴、成・整形方法	備考	実測図	回収
H-31-3 床土	H-31 No.14	土師器 环	Ø(31.6) 43.2	①繊維 ②良好(酸化) ③5YR6/6燈 ④口縁一部1/2残	平底。体部は内側ぎみに開き、中位から直線的に口縁部に至る。外面：口縁部横擦で、底部窪無り。底部鋸割り。	29 10		
H-31-4 埋土	H-31 No.12	須恵器 環	Ø(8.6) (1.7)	①繊維と良好(還元) ②良好(酸化) ③5YR6/6燈 ④口縁一部1/4残	底部は回転式切り後斜付高台。外面：ロクロ成形。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-32-1 埋土	H-32 No.1	土師器 环	Ø(12.0) 43.3	①繊維と良好(酸化) ③5YR6/6燈 ④口縁一部1/4残	平底。体部は直線的に開き口縁部に至る。外面：口縁部横擦で、底部窪無り。底部鋸割り。内面：口縁部横擦で、体部窪無り。	29 10		
H-32-2 埋土	H-32 No.2	土師器 环	Ø(12.2) 43.1	①繊維 ②良好(酸化) ③5YR6/6燈 ④口縁一部2/3残	平底。体部は直線的に開き口縁部に至る。外面：口縁部横擦で、底部窪無り。内面：口縁部横擦で、底部窪無り。	29 10		
H-34-1 床直	H-34 No.13	土師器 环	Ø(15.5) 43.8	①繊維と良好(酸化) ③5YR6/6燈 ④4H±10%充	底部は緩やかな丸。体部との境に弱い模様をもつ。口縁部は大きめ外反する。外面：口縁部横擦で、底部窪無り。内面：口縁部横擦で、底部窪無り。	29 10		
H-34-2 床土	H-34 No.2	土師器 長胴甕	Ø(25.0) Ø(25.0) Ø(27.0)	①中・粗筋 ②やや不良(酸化) ③7.5YR6/6燈 ④口縁一部1/3残	口縁部は直線ぎみに外反する。底部は側から膨らむをもつ。外面：口縁部横擦で、底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-35-1 埋土	H-35 No.3 かNo.3 13	須恵器 壺	Ø(13.0) Ø(6.1) Ø(4.5)	①繊・中筋②やや不良 ③7.5YR7/6燈 ④口縁一部1/3残	体部内側ぎみに開き口縁部で短く外反する。外面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-35-2 埋土	H-35 No.2	須恵器 环	Ø(11.3) Ø(5.4) Ø(3.0)	①繊維と良好(酸化) ③5YR7/6燈 ④口縁一部1/2残	体部内側ぎみに開き口縁部で短く外反する。外面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-35-3 床直	H-35 No.2	須恵器 器	Ø(14.0) Ø(6.4) Ø(4.3)	①繊維と良好(還元) ③5YR7/1灰白 ④体部一部1/2残	体部内側して直線部で短く外反する。外面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-36-1 埋土	H-36 No.3	須恵器 直	Ø(17.4) Ø(27.5) Ø(9.5)	①繊維と良好(還元) ③5YR4明褐色 ④口縁一部1/3残	体部内側して直線部で短く外反する。外面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。体へ口縁部横擦け横筋。内面ロクロ成形。横筋掛け横筋。	29 10		
H-37-1 埋土	H-37 No.2	須恵器 壺	Ø(5.9) Ø(1.9)	①繊維と良好(還元) ③10Y7R8/白④底部1/2残	体部は低、高台輪の形。外面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-38-1 埋土	H-38 No.4	須恵器 壺	Ø(15.8) Ø(6.5) Ø(4.9)	①繊維と良好(還元) ③5FB5/1灰 ④口縁一部4/4残	体部内側ぎみに開き口縁部で外反する。外面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-38-2 床直	H-38 No.7	須恵器 直	Ø(13.8) Ø(4.5)	①繊・中筋②やや不良(還元) ③2.5Y7/1灰白 ④口縁一部1/3残	体部大々向外して開き口縁部は外反する。内面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-38-3 床直	H-38 No.1	土師器 甕	Ø(19.8) Ø(21.6) Ø(7.3)	①繊維 ②良好(酸化) ③5YR6/8燈 ④口縁一部1/2残	口縁部「J」の字状。脚部は上位に膨らむ小形の腹。外面：口縁部横擦で、底部窪無り。脚部上位横方向窪無り。内面：口縁部横擦で、底部窪無り。	29 10		
H-38-4 埋土	H-38 No.1	土師器 甕	Ø(13.0) Ø(3.2) Ø(14.0) Ø(16.5)	①繊維 ②良好(酸化) ③5YR6/6燈 ④口縁一部1/4残	口縁部直線的に開き口縁部で外反する。内面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-39-1 埋土	H-39 No.2	須恵器 壺	Ø(23.9) Ø(6.3) Ø(4.3)	①中筋少々や不良(酸化) ③7.5YR7/3C±15°傾 ④口縁一部2/3残	体部は直線的に開き口縁部で外反する。内面：ロクロ成形。底部窓切り後斜付高台。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-42-1 埋土	H-42 No.3	須恵器 环	Ø(14.8) Ø(2.9) Ø(4.3)	①繊維と良好(還元) ③10Y6R7/1灰白 ④口縁一部欠損	体部は直線的に開き口縁部でやや内傾す。外面：ロクロ成形。底部窓切り。内面：ロクロ成形。	29 10		
H-42-2 埋土	H-42 No.4	須恵器 甕	Ø(17.8) Ø(7.0) Ø(7.4)	①繊維と良好(還元) ③2.5Y6/1黄灰 ④4H±10%充	平底。体部はほぼ垂直に口縁部に至る。外面：ロクロ成形。窪無し。底部窓切り。内面：ロクロ成形。底部窓切り。	29 10		
P-87-1 埋土	P-87 No.1	須恵器 直	Ø(15.8) Ø(4.5) Ø(2.2)	①繊維と良好(還元) ③2.5Y6/1黄灰 ④つまみE#2.2	口縁部窓内側に付く内側を帯びる。内面：ロクロ成形。自然端付。内面：ロクロ成形。	29 10		
P-94-1 埋土	P-94 No.1	須恵器 直	Ø(15.8) Ø(3.4)	①繊維と良好(還元) ③5Y6/1灰 ④つまみE#3.4	外面：つまみ付付。天井部窓切り。内面：脚で成形。	29 10		

注) 出土遺物観察記の記載基準は、以下とのおりである。

①軸土は、繊維0.9mm以下、中筋1.0~19mm、粗筋2.0mm以上とした。

②焼成は、良好、やや不良、不良の3段階とした。

③④は推定、――は残存個数を表す。

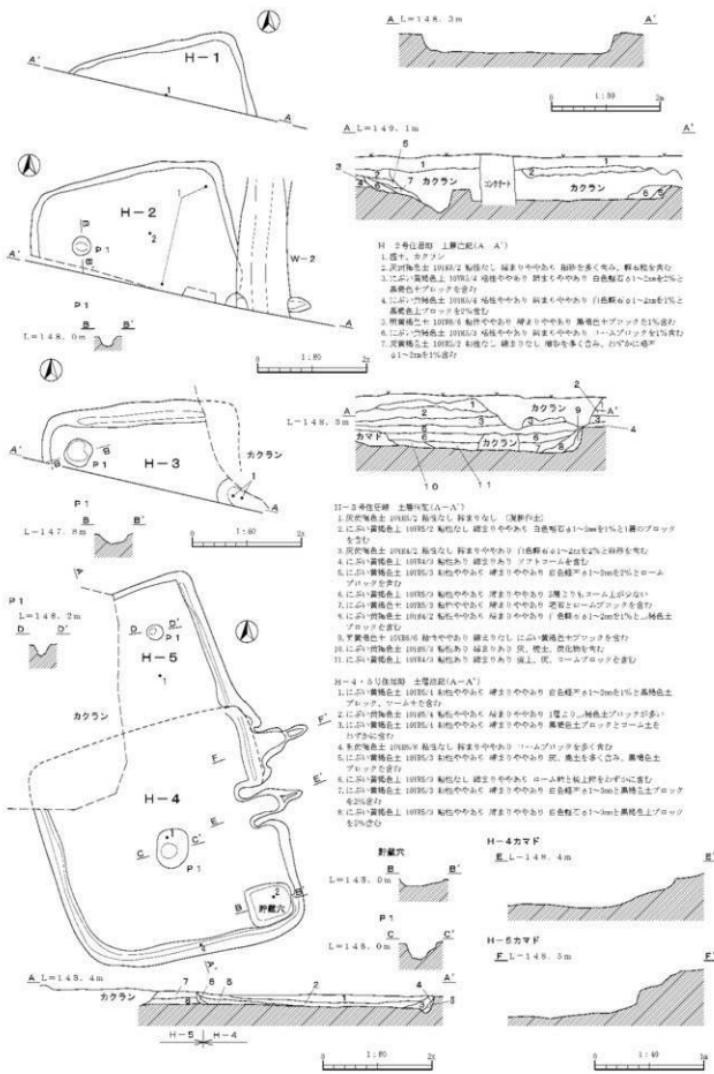
⑤附記は、「床直」は床面よりの出土、「床土」は床面より10cm未満の層位からの出土、「埋土」は床面より10cm以上の層位からの出土の3段階に分けた。

⑥遺物番号は、各遺物ごとの番号で表示。台帳番号のカマF内の出土については「カ」、貯蔵穴内には「貯」、ビット内には「P」と記載した。

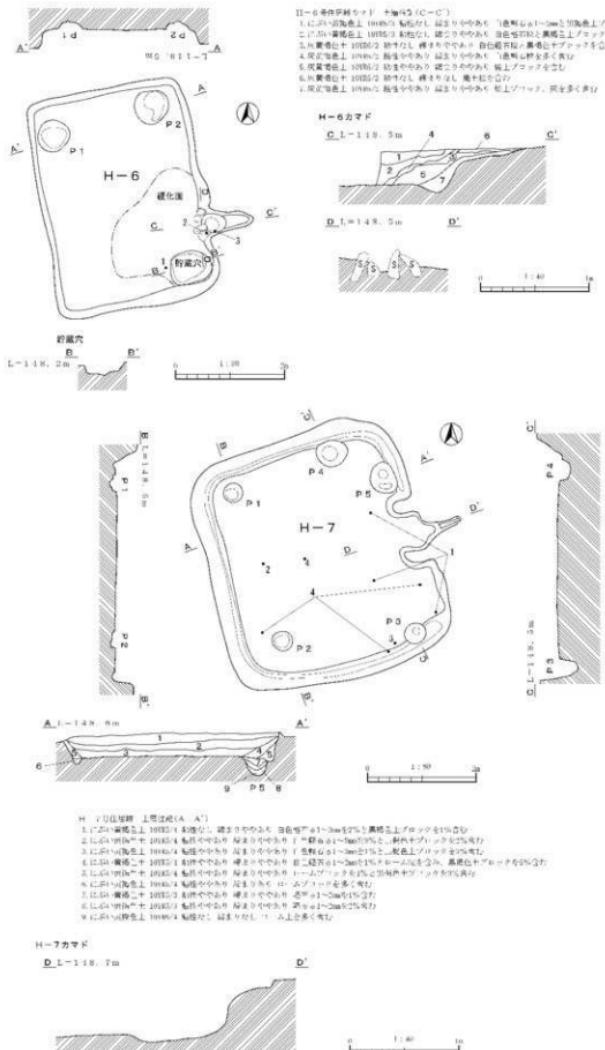
勝沢田之口遺跡全体図



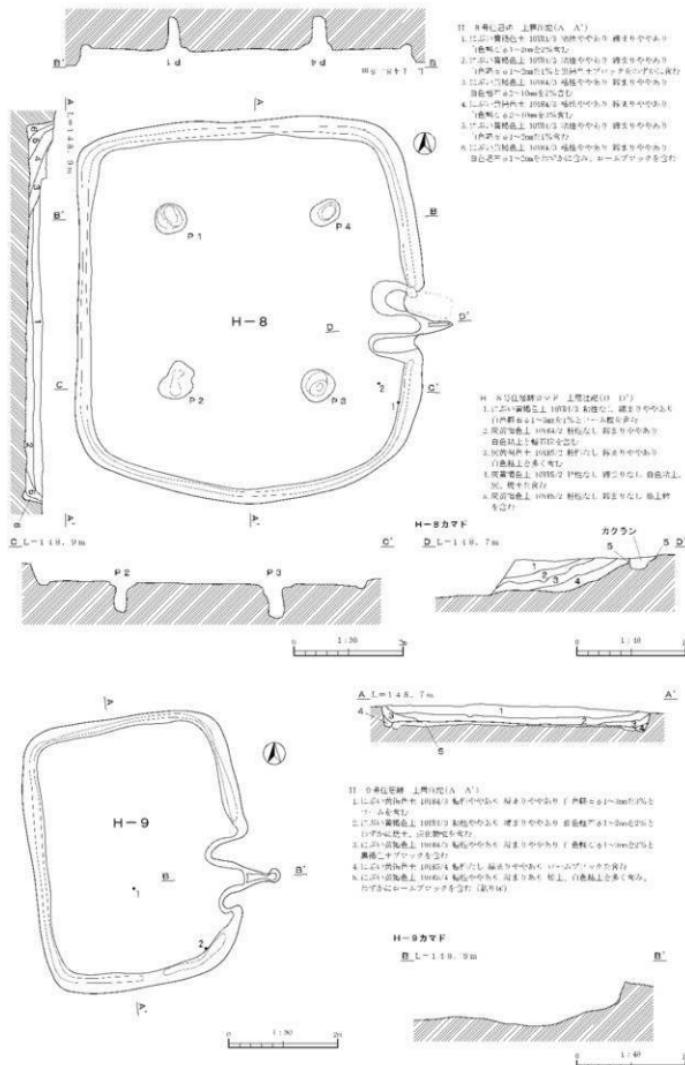
第4図 勝沢田之口遺跡全体図



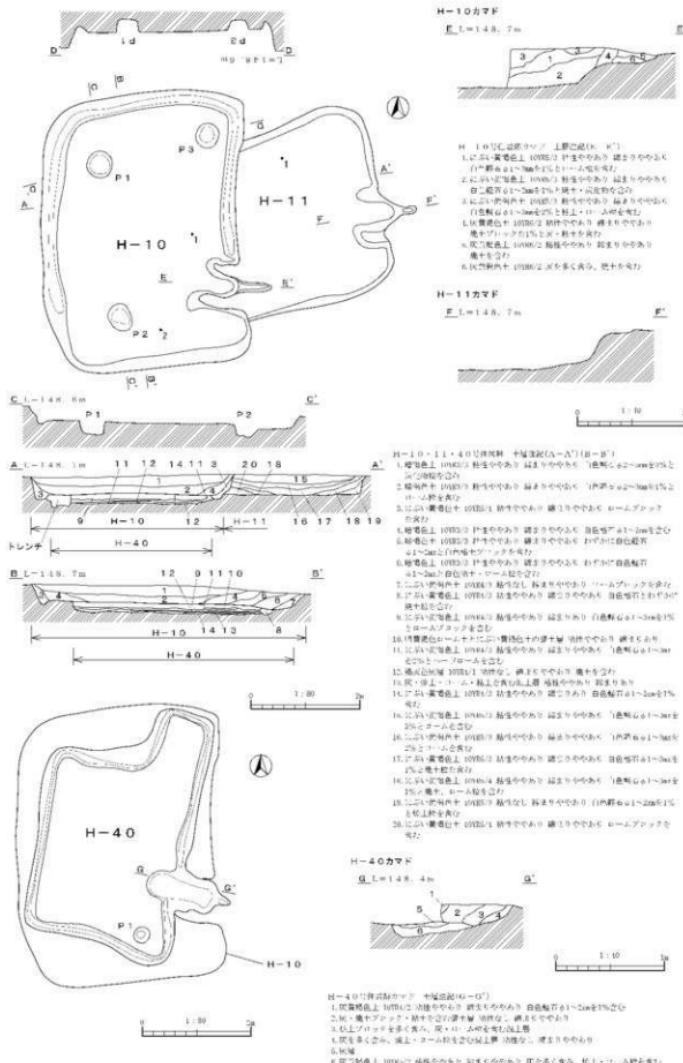
第5図 H-1~5号住居跡



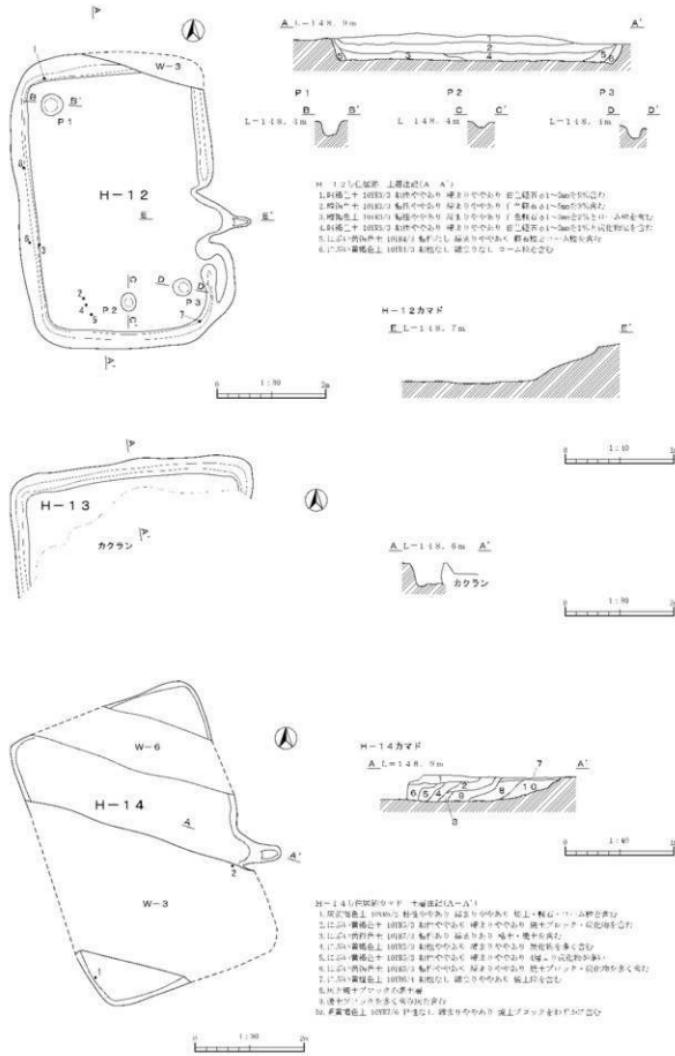
第6図 H-6・7号住居跡



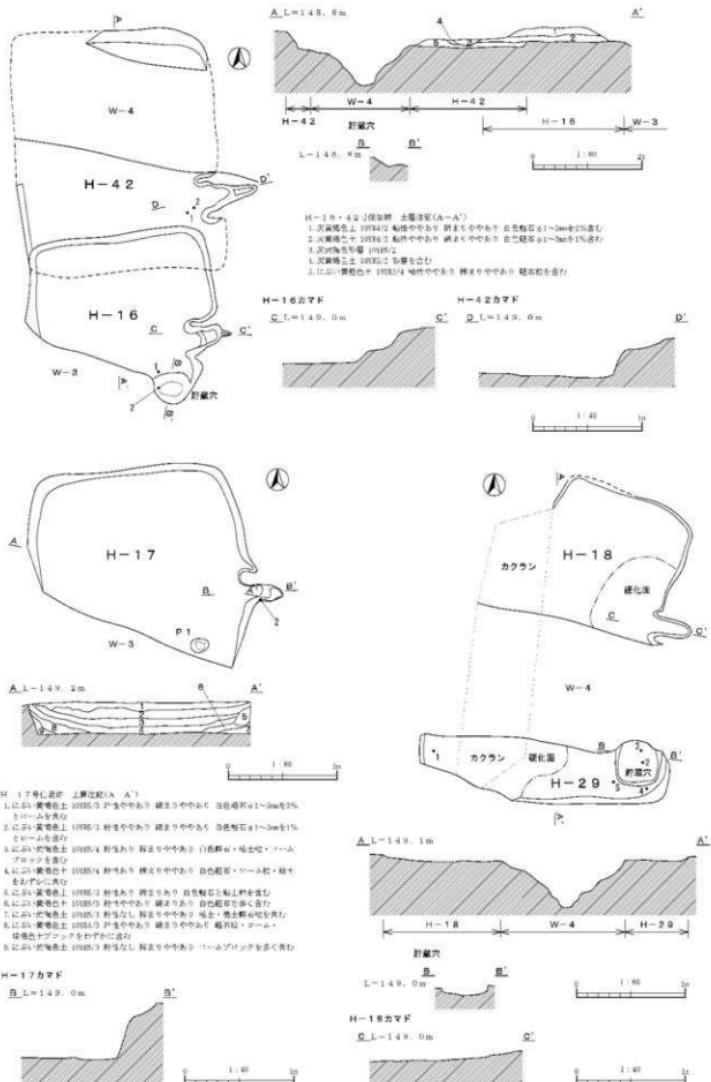
第7図 H-8・9号住居跡



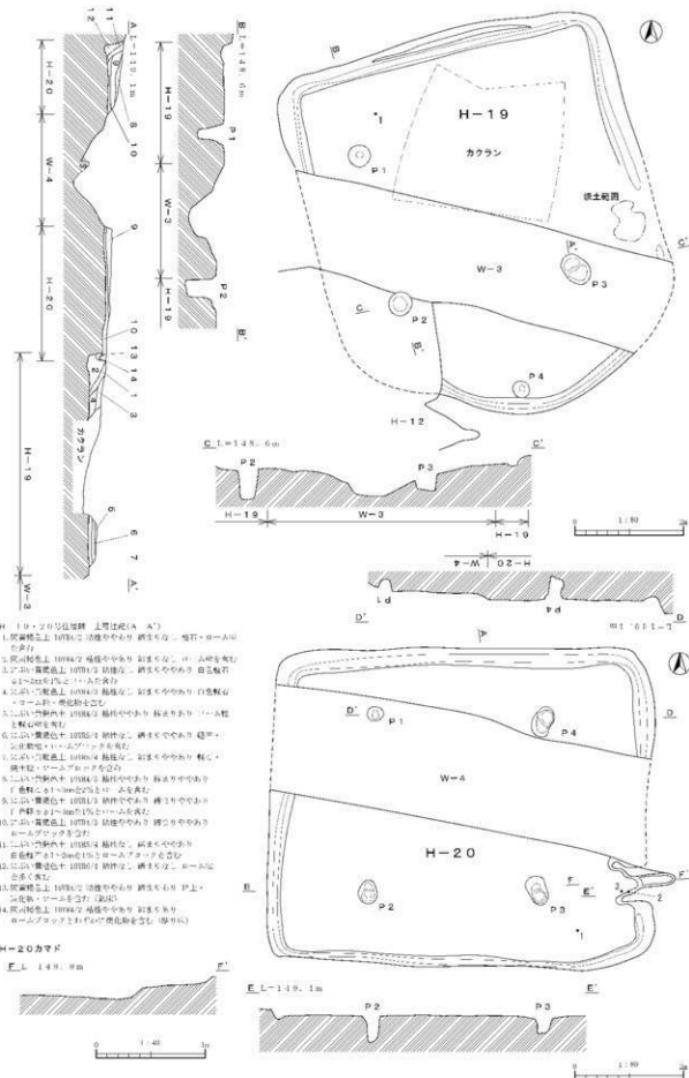
第8図 H-10・11・40号住居跡



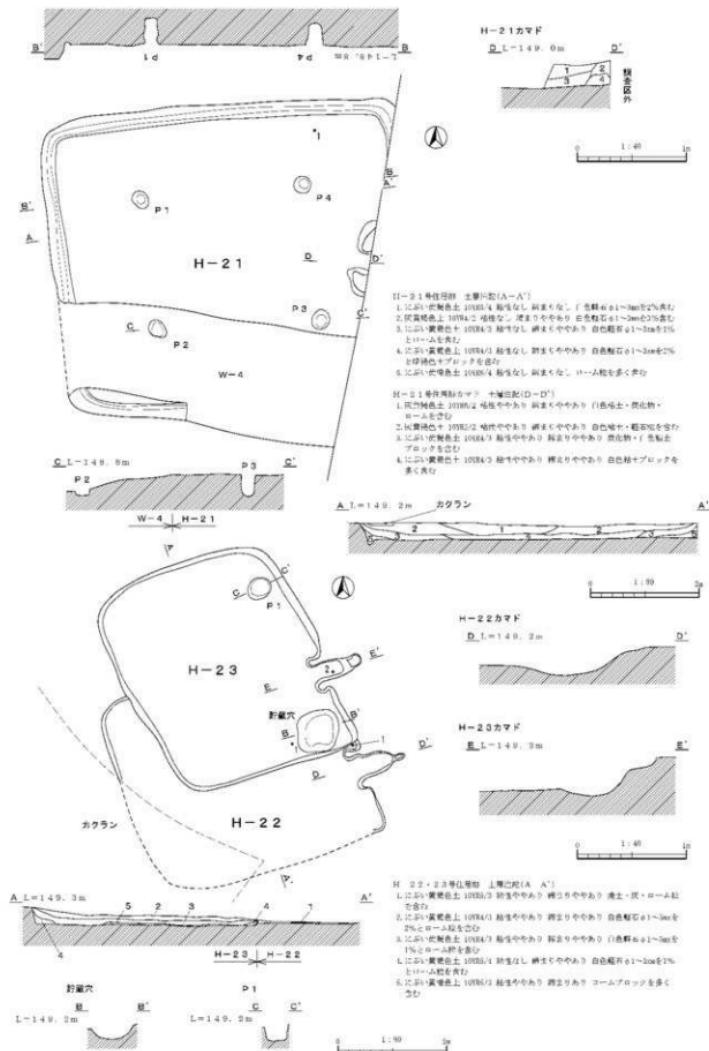
第9図 H-12~14号住居跡



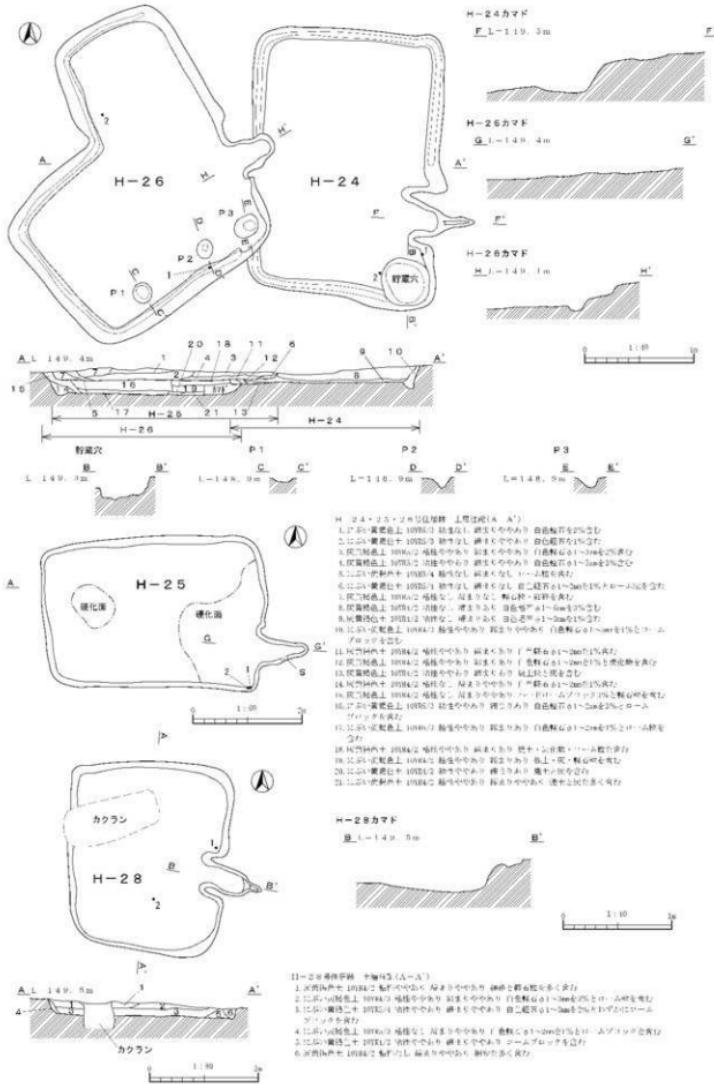
第10图 H=16~18·29·42号住居跡 W=4号遺



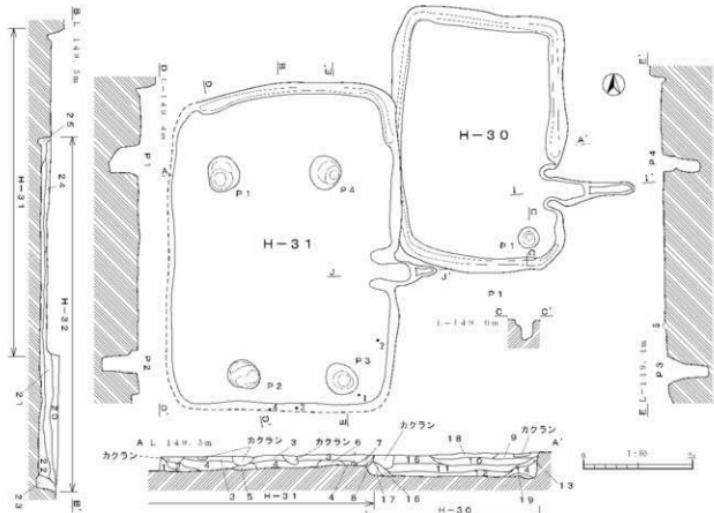
第11図 H=19・20号住居跡 W=3・4号窓



第12図 H-21～23号住居跡、W-4号構



第13図 H-24~26・28号住居跡

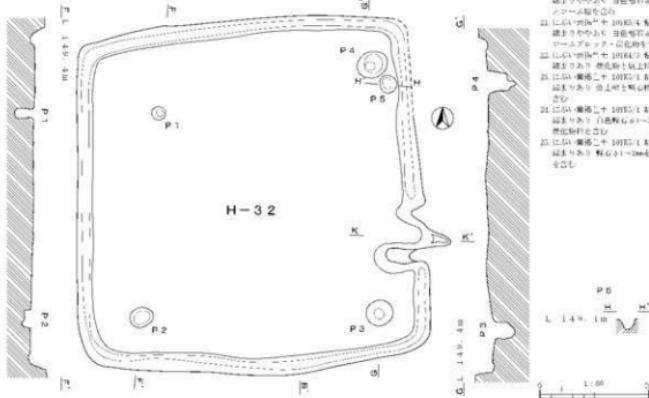


11-30·31·32·33·34·35·36·37·38·39·30·31·32·33·34·35·36·37·38·39

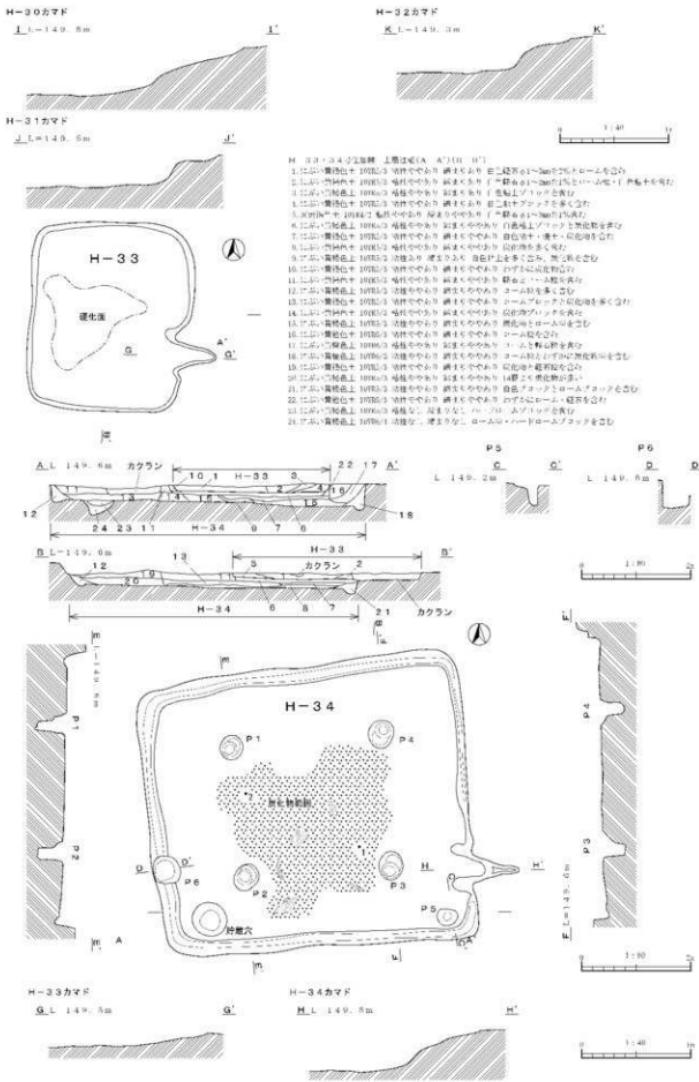


15. 開拓の原点は、1920年頃の「アーチ・ブリッジ」構造とその改良、初期化粧瓦と瓦の改良。  
16. 1920年頃の内装は、壁紙や床材の多様化、内装の色彩化など。  
17. 1920年頃の「アーチ・ブリッジ」構造は、初期化粧瓦と瓦の改良、ヨーロッパ・イタリア風の建築文化。  
18. 1920年頃の「アーチ・ブリッジ」構造とその改良、初期化粧瓦と瓦の改良、ヨーロッパ・イタリア風の建築文化。  
19. 1920年頃の「アーチ・ブリッジ」構造とその改良、初期化粧瓦と瓦の改良、ヨーロッパ・イタリア風の建築文化。  
20. 1920年頃の「アーチ・ブリッジ」構造とその改良、初期化粧瓦と瓦の改良、ヨーロッパ・イタリア風の建築文化。

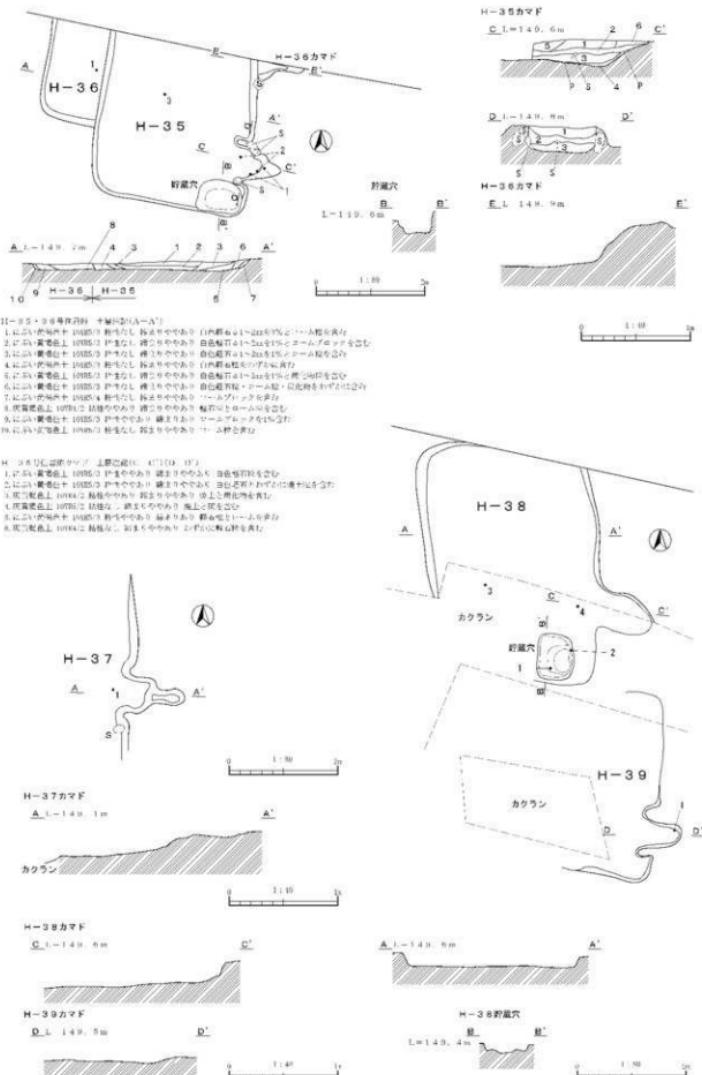
19. 次回加也上 1998/2 電話男：出生日期：1971-01-01



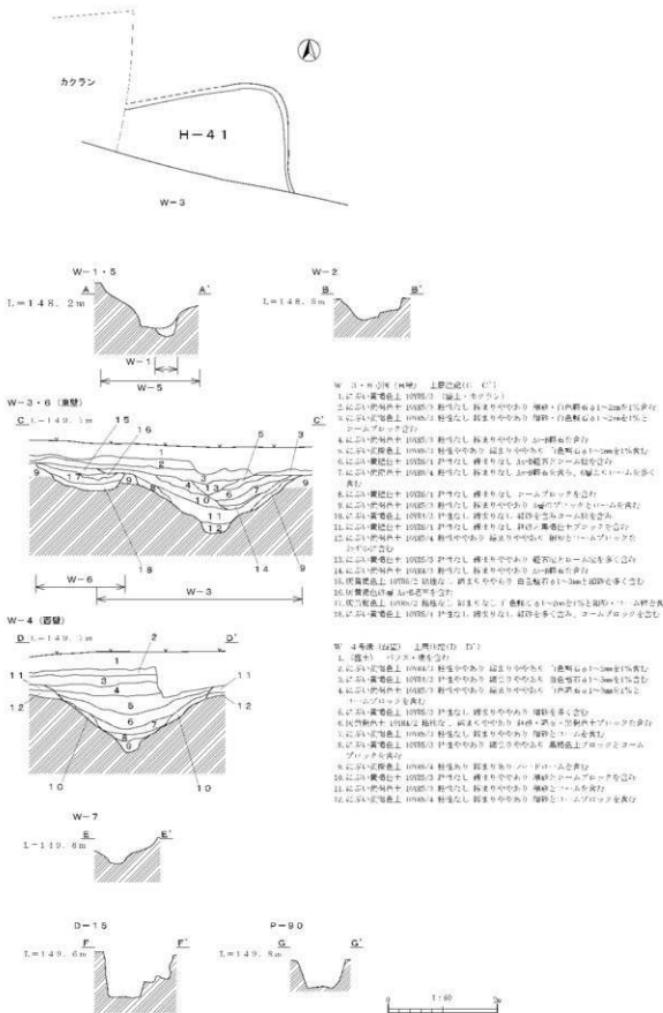
第14図 H-30~32号住居跡



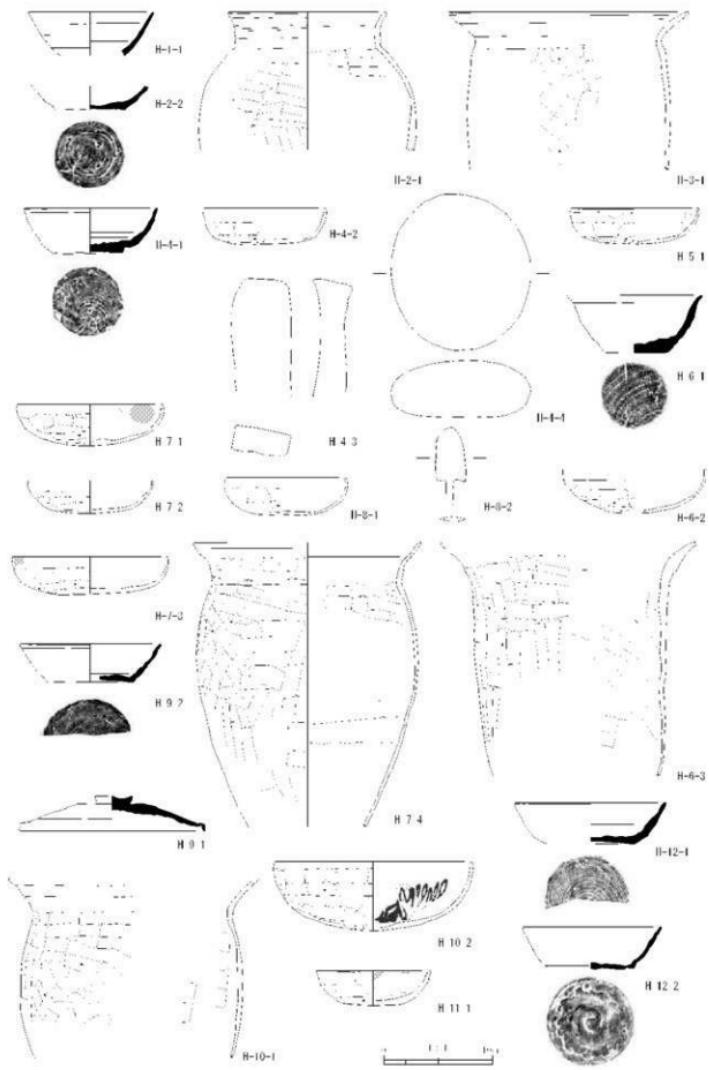
第15図 H-30~34号住居跡



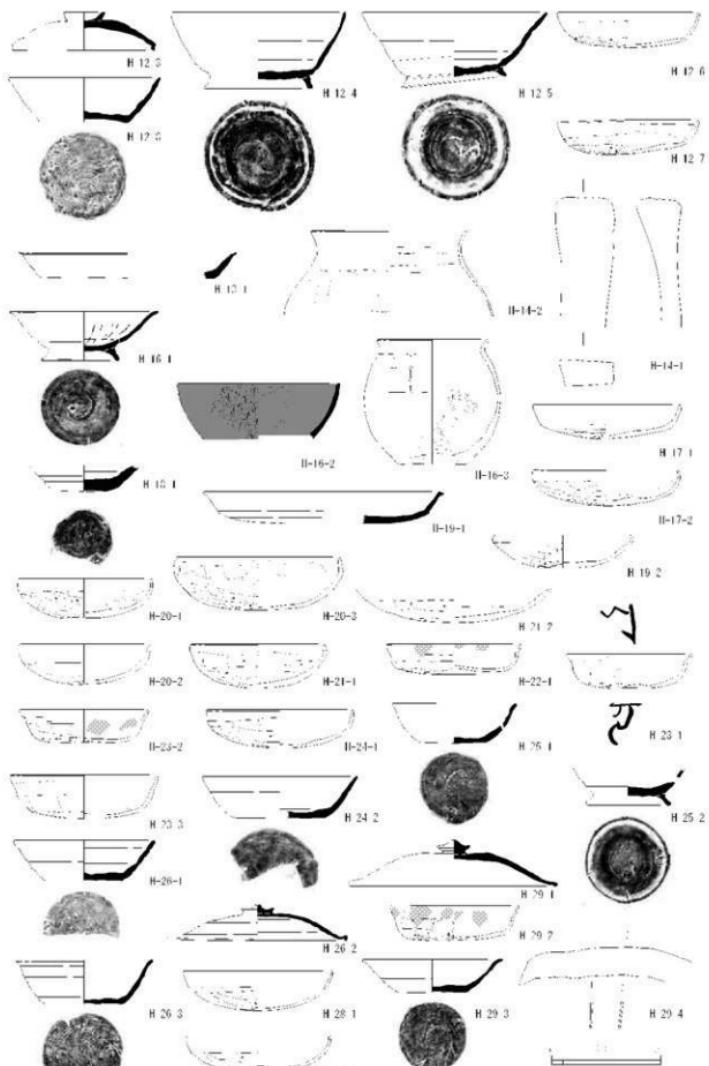
第16圖 H=35~39最佳尾跡



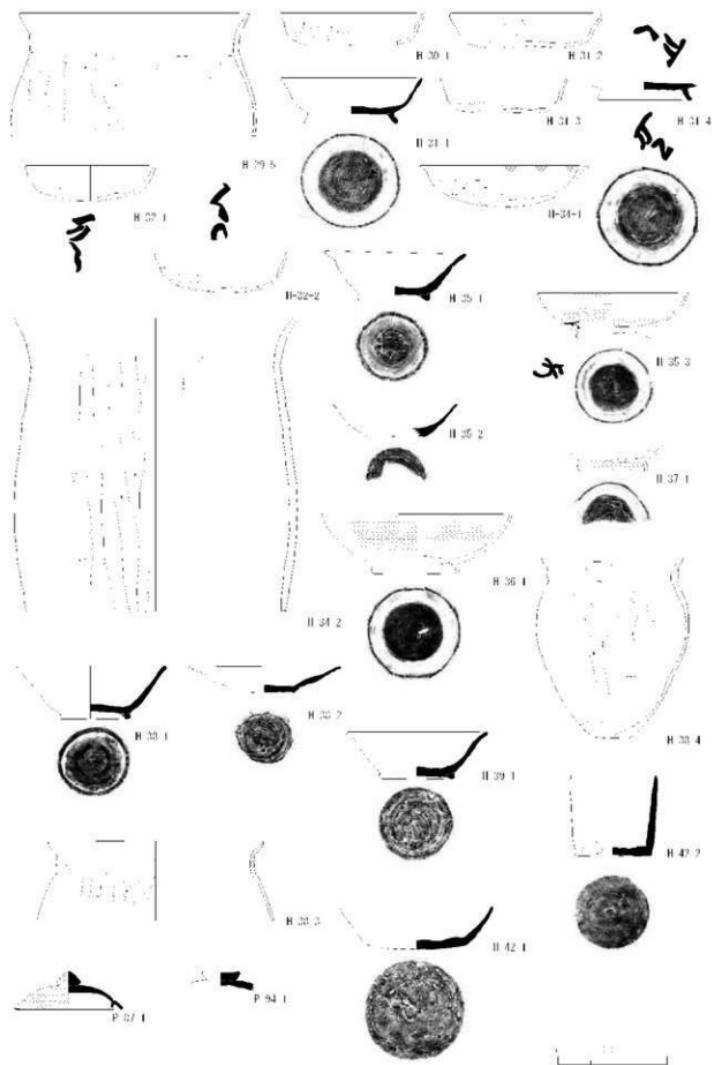
第17図 H-41号住居跡、W-1~7号溝、D-15号土坑、P-90号ピット



第18图 H—1～12号住居跡遺物実測図



第19图 H-12~14・16~26・28・29号住居跡遺物実測図



第20図 H-29~32・34~39・42号住居跡P-87・94号ピット遺物実測図



調査前全景（南から）



調査区全景（西から）



H-1号住居跡全景（西から）



H-2号住居跡全景（西から）



H-3号住居跡全景（西から）



H-4・5号住居跡全景（西から）



H-6号住居跡全景（西から）



H-6号住居跡カマド全景（西から）

図版2



H-7号住居跡全景（西から）



H-8号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡全景（西から）



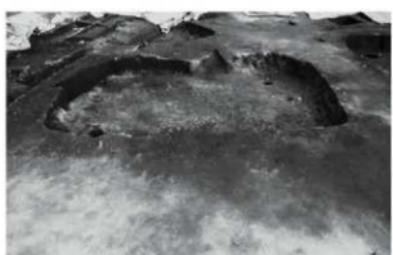
H-10・11号住居跡全景（西から）



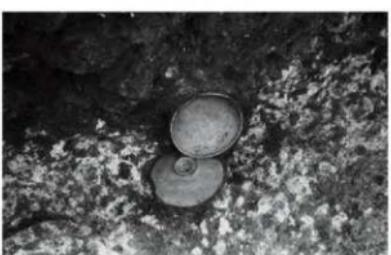
H-10号住居跡全景（西から）



H-10号住居版築状貼り床セクション



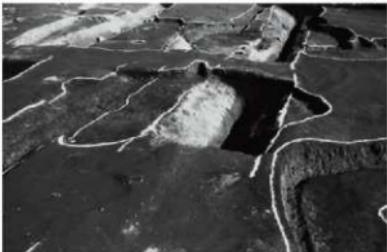
H-12号住居跡全景（西から）



H-12号住居跡遺物出土状況



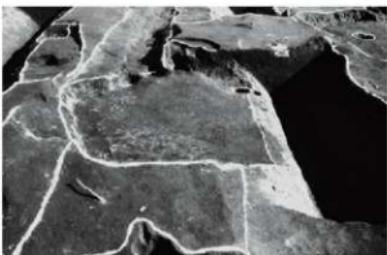
H-13号住居跡全景（西から）



H-14号住居跡全景（西から）



H-16号住居跡全景（西から）



H-17号住居跡全景（西から）



H-18号住居跡全景（西から）



H-19号住居跡全景（西から）



H-20号住居跡全景（西から）



H-21号住居跡全景（西から）

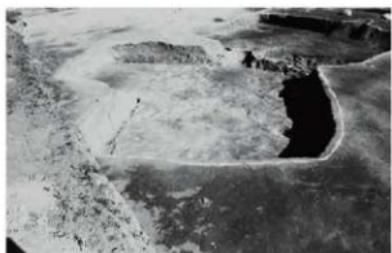
図版4



H-22・23号住居跡全景（西から）



H-23号住居跡床下土坑全景（西から）



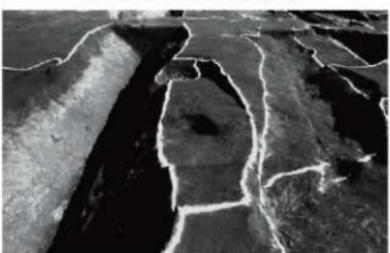
H-24・26号住居跡全景（西から）



H-25号住居跡全景（西から）



H-28号住居跡全景（西から）



H-29号住居跡全景（西から）



H-29号住居跡遺物出土状況



H-30号住居跡全景（西から）



H-31号住居跡全景（西から）



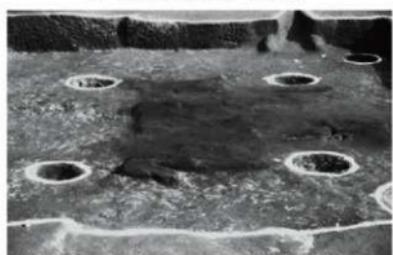
H-32号住居跡全景（西から）



H-33号住居跡全景（西から）



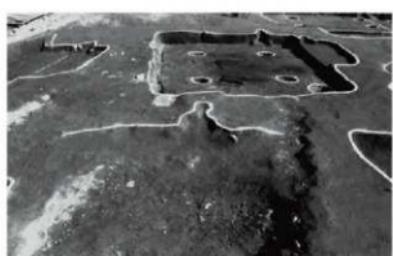
H-34号住居跡全景（西から）



H-34号住居跡炭化物出土状況



H-35・36号住居跡全景（西から）

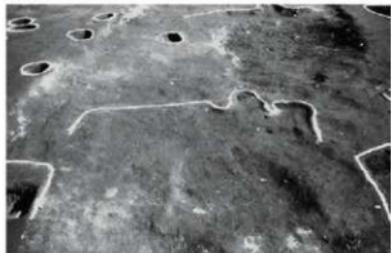


H-37号住居跡全景（西から）



H-38号住居跡全景（西から）

図版6



H-39号住居跡全貌（西から）



H-40号住居跡全貌（西から）



H-40号住居跡カマド全貌（西から）



H-40号住居跡掘り方全貌（西から）



H-41号住居跡全貌（西から）



H-42号住居跡全貌（西から）



H-42号住居跡遺物出土状況



W-1・5号溝全貌（東から）



W-2号溝全景 (南から)



W-3・6・4号溝全景 (東から)



W-4号溝内の自然石出土状況 (西から)



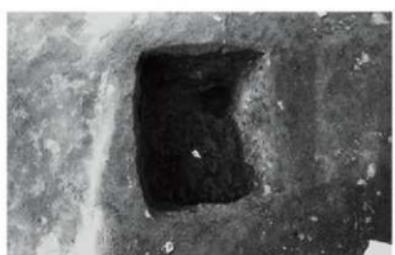
W-7号溝全景 (北から)



D-15号土坑全景 (西から)



調査区南東部ピット群全景 (西から)



P-90号ピット全景 (東から)



深掘りセクション (北壁)

図版8



図版9



図版10



## 抄 錄

フリガナ	カツサワタノクチイセキ
書名	勝沢田之口遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	梅澤克典（前橋市埋蔵文化財発掘調査班） 金子正人・荻野博巳・山口和宏（スナガ環境測設株式会社）
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査班
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2008年2月1日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北 緯	東 綏			
勝沢田之口遺跡	前橋市勝沢町	10201	19C38	36°25'15"	139°05'46"	20070808 ～ 20080201	2,500m <sup>2</sup>	市有地売却

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	
勝沢田之口遺跡	集落跡	奈良時代	竪穴住居跡	17軒	土師器壊・壺、須恵器壊・猪口 砥石、鐵鐵	
		平安時代	竪穴住居跡	20軒	土師器壊・壺・墨書き土器 須恵器壊・蓋・壠 灰釉陶器壊・墨書き土器、鎌	
		中世～近世以降	溝	7条	土師器片、須恵器片 軟質陶器片	
		不明	竪穴住居跡	3軒	土師器片、須恵器片	
			土坑	16基	土師器片、須恵器片	
			ピット	101基	土師器片・須恵器片・蓋片	

## 勝 沢 田 之 口 遺 跡

2008年1月25日 印 刷  
2008年2月1日 発 行

発 行 前橋市埋蔵文化財発掘調査班  
前橋市三保町二丁目10-2  
編 集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1  
印 刷 朝日印刷工業株式会社